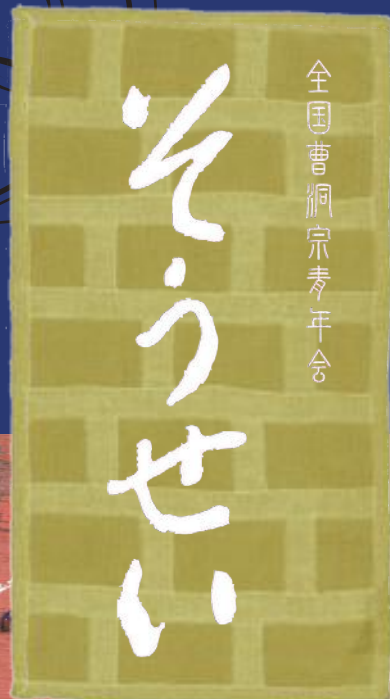


平成11年6月8日第三種郵便物認可(年4回1・4・7・10月の5日発行)そうせい 第145号 平成21年4月5日発行



第17期全曹青執行部スローガン
"SMILE つながれ 笑顔"



2009.04
No.145

巻頭特集

環境問題のツボ

寺院における環境問題への取り組み ～ 宮城県長泉寺取材報告 ～

平成20年度 四国地区曹洞宗青年会管区大会報告



寺院における 環境問題への取り組み

宮城県長泉寺取材報告 | 安藤生大



最終回

連載「環境問題のツボ」は第五回の今回で最終回となります。連載の全体を通して監修をお願いした千葉科学大学の安藤生大氏に、寺院として初めてISO14001を取得した宮城県長泉寺様を取材していただき、実際に環境問題に取り組んでいるお寺の具体例として紹介していただきます。



鷗工舎の宮大工、小川三夫氏

東北に、環境マネジメントシステムの国際規格であるISO14001を取得したお寺があると聞いて、去る二月二十七日に取材に伺った。

訪れたのは宮城県角田市角田字長泉寺六十九にある曹洞宗六國峯長泉寺である。長泉寺は、阿武隈急行角田駅から歩いて五分ほどの所にある。このお寺は、今から約四百年前に角田地方の殿様であった石川公の菩提寺として創建された。かつては、多くの僧侶が修行をした東北でも有数の名刹である。長泉寺では、平成十六年にISO14001の認証を受けている。

取材当日は、雪が舞う肌寒い天気であったが、現住職（第四十二世）の奥野成賢師が、温かく迎えてくれた。道路に面した山門をくぐると、まず目に入ったのが、建て替えられた真新しい本堂である。この本堂は、四年の工期を経て、平成二十年九月十八日に落慶法要が営まれた。この設計・施工は、宮大工として名高い鷗工舎（いかるがこうしゃ）の小川三夫氏が請け負った。取材当日に、ちょうど長泉寺を訪ねられていたことから、ご挨拶する機会を得た。「樹齢二百年の吉野ヒノキや、千五百年のカナダヒバなどの天然木材をふんだんに使い、数百年の風雪に耐える建造物を目指して建立しました」とのお話を伺うことができた。この長泉寺の建設の記録は、塩野米松氏により『鷗工舎の仕事 長泉寺建立記』として文藝春秋社から平成二十年十二月二十五日に出版されている。

社から平成二十年十二月二十五日に出版されている。寺社の建築には大きな木を大量に使う。「千年の木を使うなら、千年もつ建物をつくる」というのが



笑顔で取材に応じて下さる長泉寺御住職 奥野成賢師

用語解説

環境マネジメントシステム

環境マネジメントシステムとは、“環境”つまり「人間の生存条件」と、人間の集団である“組織”が優先しがちな「目先の価値や利益」の両方を、何とか苦勞しながらうまくやってゆくための「ルール体系」と理解することができる。つまり、組織に環境マネジメントシステムを構築あるいは導入するということは、自分達の「ルール体系」に「環境」という価値基準を盛り込ませることである。

ISO14001

ISO14001は、組織のルール体系が環境マネジメントシステムといえるかどうかを判定するためにつくられた国際基準である。これは、1996年に国際標準化機構 (International organization for Standardization) という非政府組織によって作られた国際基準である。このISOの中で、14001番という規格番号をもつものが、環境ISOと呼ばれる“ISO14001”である。“国際”基準とする理由は、環境問題が地球規模の問題だからである。この基準に従って、組織のルール体系が環境マネジメントシステムといえるかどうかを客観的に確認し判定する作業を、“環境審査”といい、それを審査するのが“審査員”(環境マネジメントシステム審査員)である。

PDCAサイクル

ISO14001では、計画 (Plan) — 実施 (Do) — 検証 (Check) — 見直し (review&Action) という四つのステップによるサイクルを課している。このサイクルは、英語の頭文字をとって「PDCAサイクル」と呼ばれている。つまり、計画 (P) し、その計画どおりに実施 (D) し、それが計画どおりに行われているか検証 (C) し、見直しにより悪いところを修正してより良い計画を作成する (A) というように、PDCAサイクルには、終わりや完成がなく、螺旋階段を上がるように少しずつ向上 (スパイラルアップ) してゆくことになる。

環境方針

PDCAの「P=計画」段階における環境マネジメント全体の“方針”が、“環境方針”である。環境方針には、“進む方向”と“進める力”という二つの要素が含まれる。長泉寺の環境方針では、環境目標の重点事項に「地球温暖化防止活動への取り組み」を掲げて進む方向を示し、「檀信徒及び保護者との連携を強めて」、「地域社会における環境意識の促進に努める」として、進む力を明示している。

長泉寺環境方針

宗教法人長泉寺は、地球環境保全及び循環型社会への対応が人類の最重要課題であることを認識し、以下の環境方針を定める。

【基本理念】

《寺院部門》

寺院内の活動を、環境保全の視点から定期的に見直すとともに、継続的な改善に取り組む。

《幼稚園部門》

園児たちの生活環境の維持・改善に取り組むとともに、これからの社会が必要とする人材育成の保育に努める。

【基本方針】

1. 全職員が一致協力し、環境保全・維持活動を継続的に改善し、汚染の予防を推進するために、環境目的及び目標を設定し、定期的にレビューする。(重点事項：地球温暖化防止活動への取り組み)
2. 職員は地域社会における環境意識を促進し、檀信徒及び保護者との連携を強め、少しでも環境の維持改善という意識をもっていただくように努める。
3. 環境に関連する法規制及び当法人が同意するその他の要求事項を順守するとともに、環境汚染の防止に努める。
4. 環境問題に対する宗教及び教育機関としての寺院や幼稚園の役割を果たす。
5. 長泉寺が保有し、寺宝とする学術的文化財 (仏像、絵画等及び樹木等環境文化財) を保護する。
6. 地域における、寺院・幼稚園のあり方を自覚して地域への奉仕活動を積極的におこなう。

2008年7月1日

宗教法人 長泉寺

住職 (代表役員) 奥野成賢

宮大工の矜持である。長い時間をかけて大気中の二酸化炭素を固定した天然木材を用いて本堂を建て、それをみんなで、長い間、大切に使う。そうすれば、数百年にわたって、二酸化炭素を固定することができる。長い間受け継がれてきたお寺の自然環境や、二酸化炭素を大量に固定した本堂を、数世代に及ぶ長い時間で維持させようとする時、お寺における環境マネジメントシステムの構築とISO14001の認証取得は、大きな威力を発揮する。



取材・執筆をお願いした千葉科学大学の安藤生大氏

人権、平和、環境の三つの柱があります。今のお寺はそのスローガン掲げているわりには、いまひとつ具体的な活動が見えてこない。そこで、目に見える活動をしようとして、国際環境規格ISO14001認証取得に取り組んだわけです」との答えを頂いた。つまり、住職の環境問題に対する態度表明 (トップコミットメント)

が、お寺初のISO14001取得へ動いた大きな原動力となったようである。加えて、現在、長泉寺のスタッフとして働いている山崎義幸さんの存在も大きい。山崎さんは、前職の企業でISO14001に関する仕事を行った経験があり、環境マネジメントシステム審査員の資格も持つエキスパートである。このため、ISO14001取得のための実務は、ほぼ総て山崎さんが担当した。

このように、長泉寺では、住職のトップコミットメントと優秀な人材を確保できたことが認証取得を実現できた要因といえる。



長泉寺の環境対策を管理されている山崎義幸氏

最初に取り組んだこと

ISO14001認証取得に先立ち、長泉寺がまず取り組んだのは、境内の禁煙である。これは、吸殻のポイ捨て禁止や建物の火災予防といった一般的な理由に加え、長泉寺が幼稚園（宗教法人長泉寺ミニ幼稚園）を併設していることから、園児を煙害から守る



ごみ箱の撤去が墓地の美化に貢献している

という理由もあった。最初、住職がこの提案を役員会に諮ったところ、賛成三割、反対七割の状況であった。しかし、世の流れに後押しされたこともあり、平成十四年十二月には、禁煙宣言のスタンドが境内と幼稚園に立てられるに到った。この禁煙宣言は、現在では多くの檀信徒から支持され、周囲のお寺にも広がりを見せているとのことである。

次に取り組んだのが、墓地のごみ箱の撤去である。当時、長泉寺の墓地に設置してあったごみ箱には、お墓参りから出るごみ以外に、隣接する台山公園で遊んだ後の弁当箱や、時には、家庭ごみ、廃家電、更には粗大ごみまで捨てられることがあったそうである。この

ため、気持ち良くお参りしていただくために、墓地からごみ箱を撤去した。これについても、最初は反対意見や批判が多かったが、現在ではごみの持ち帰りが当たり前となり、ポイ捨ても大幅に減ったとのことである。

長泉寺の取り組み事項

ISO14001では、三年ごとにPDCAサイクルに基づく見直し審査が入る。長泉寺では、平成二十一年現在、一回目の見直しを終えて第二期に入っている。長泉寺における第一期の重点取り組み事項は、紙、電気、水などの節約とごみの削減、そして環境配慮意識の周知を行うことであった。その結果、電気使用量は開始前の十二パーセントの削減を達成し、墓地周辺のごみの削減、供物やごみの持ち帰りなど、檀信徒の協力も得ながら、特にごみ問題に対す



園長として、園児の帰りを見送る奥野師

る環境配慮意識の向上に成功した。加えて、塔婆は小型に統一し、供養の後はチップとして再利用する試みも始めた。この点に関して住職は、「塔婆は、大きいと先祖を大事に供養したような気がしますが、それを今主流となっている一・八メートルから半分の九十センチに統一し、なおかつ古いものは回収して資源化しました」と話している。節水についても、興味深いお話をいただいた。当初、なかなか水道の使用量が減らず、削減目標を下回る状態が続いた。全員で日常生活の見直しを行ったが、それでも効果が出なかった。そこで新たに別の原因を追求した結果、台所付近の地中配管からの水漏れを発見したとのことである。削減の努力がなければ、しばらく発見できなかったかもしれないことであり、まさに環境対策の副産物である。実は、これを発見したのは、住職の奥様とのことで、日ごろから細部にわたる環境配慮意識が組織の全員に浸透していたことをうかがわせる。住職も「ありがたいことです。ISO14001認証取得をきっかけに、全員が環境問題の活動に意識を持つようになったし、場当たり的でなく計画的にやる訓練にもなりました」と語っていた。

幼稚園の取り組み事項

第一期の取り組みは寺院部門の



みで行ったが、第二期ではそこに「幼稚園部門」を加えた。住職に「ミニ幼稚園」での具体的な取り組みを紹介してもらった。「子どもたちには難しいことを言っても分らないので、年少、年中、年長のクラスごとにごみの分別教育を行っています。同時に家庭での教育を大切にしたいので、保護者にはこの点とあるごとに、ごみと環境問題との関連を伝えていきます。さらに、私の説法には必ず環境問題にかかわる話を取り入れるようにしてい



ます。そして、機会あるごとに親子で楽しくごみ拾いとか、分別ができるようにしています。幼稚園の行事、例えば四月八日の花祭り、台山公園のごみ拾い、運動会等には、ごみ分別のゲームや競争を取り入れていきます。」更に、「幼稚園の省エネについては、水道・電気節約に努めています。特に電気の消し忘れがないように徹底しています。エアコンは節約設定温度にしてあり、待機待ち電源を落とし、六月から十一月までの使用とされています。十一月からは石油暖房を入れています。」このような取り組みにより、三年間で寺院部門と幼稚園部門の合計で、百万円を超える節約が実現できたそうである。今後について住職は「園内だけでなく、檀家さんや保護者との連携を強め、少しでも環境の維持・改善という意識を持っていただくよう努めたいと思います。こ

の一環として、お盆の迎え火をたく一二時間、家の電気を消す、『キャンドルナイト』の活動を行っています。ろうそくに照らし出された境内は、浄土を思わせる幻想的な雰囲気になり、訪れて来られた人たちに好評でした。同じ日に、花火大会が行われ、お寺から見る花火がこんなにきれいだったか？と喜んでくれた檀家さんもいました」と話してくれた。長泉寺の第二期の取り組み事項には、この仏式キャンドルナイトを角田市全体に定着させることを掲げている。加えてお寺の周辺道路のごみ拾いや公共河川の清掃、公共緑地の草刈り等を環境貢献活動として位置づけ、お寺の外に向けた活動の展開を目指している。

長泉寺の今後の展開

長泉寺では、さまざまな環境配慮行動を行い、多くの成果を上げている。住職にこの要因を伺うと、「長泉寺の環境改善の取り組みが、どこでも、同じようにうまくいくとは限りません。あくまで、お寺と地域との良好なつながりが、まず一番に重要です」とのご指摘を



環境問題のツボ

いただいた。つまり、お寺が環境をキーワードにして何らかの活動を行おうとするなら、まずは檀信徒や地域社会との良好なつながりを確保することが何より重要であるとのご指摘である。

なつながりを確保した上で、もしも、ISO14001で扱う組織に一件でも檀信徒を加えることができたかどうか？お寺と檀家が組織をつくり、地域社会で環境マネジメントシステムを構築し、ISO14001の取得を目



新本堂の壁絵として再利用された旧本堂の貴重な襖絵を説明する奥野師(左)と安藤氏(右)

指す。仮に、このような取り組みができたなら、お寺を核にした具体的な環境配慮の意識と行動が、地域社会へ広がってゆく可能性が生まれる。お寺を中心とした、全く新しい地域環境再生のシナリオが展開できるかもしれない。

環境をキーワードにして、お寺が核になって、地域の環境保全に向けた具体的な行動を開始する。環境配慮の具体的な行動が求められている現代において、このような試みが一つの解決策になるかもしれない。その意味でもトップランナーとしての長泉寺の今後が楽しみである。

奥野 成賢(おくの せいけん)

昭和二十九年三月二十四日生まれ。駒澤大学大学院人文科学研究科仏教学専攻修士課程修了。宮城県曹洞宗六國峯長泉寺住職。宗教法人長泉寺ミニ幼稚園園長。

安藤 生大(あんどう たかお)

昭和四十三年三月十日生まれ、栃木県那須郡那須町出身。早稲田大学教育学部理学科地学専修卒業、早稲田大学理工学研究科資源工学専攻修士、博士(工学)。

現在、千葉科学大学危機管理学部准教授。専門は、サステイナビリティ(持続可能性)学。

環境問題を考えるポイントは、「どこから来て、どこへ行くのか?」というライフサイクル思考で考えること。この考え方をを用いて、日常生活(地域環境)と地球環境をつなげる新しい環境教育法の開発を行っている。

- 02 環境問題のツボ 最終回
寺院における環境問題への取り組み
— 宮城県長泉寺取材報告 —
- 07 曹洞ユース — 岩手県曹洞宗青年会 —
- 08 平成20年度 第6回執行部会・第7回理事会報告
- 09 千僧法要開催案内 / 定期評議員会・定期総会開催案内
- 10 四国地区曹洞宗青年会管区大会報告
- 11 第18期 基幹事業中央研修会告知
- 12 賛助会員御芳名
- 14 委員会紹介 — 広報委員会 —
- 16 禅知識まんだら2 最終回
— 新しい心理療法における「気づき」の核心的役割 —
- 18 そうとう衆列伝 最終回 — 華綾慧春尼② —
- 19 寺族のテラス 最終回 — 読者からのお便り —
- 20 ネットで愉しむ禅籍サーフィン 最終回
— 『秘密正法眼蔵注解』 —
- 21 そうせいサロン
- 22 菜食健美 最終回
— 今、飽食気分にとっぷりと浸からないために —
- 24 あまんずのダイアログ⑦ — 「せんだん」の名を冠した病院 —
- 26 曹洞宗の袈裟に学ぶ 第9回
— 「黙山元轟と微笑尼の守持衣」 —





岩手県 曹洞宗青年会

活動紹介

発 足…昭和五十一年
 会 長…平栗壽隆
 副会長…新沼孝純・瀧澤邦仁
 事務局長…菊池昌弘
 会 計…高山一法
 会 員…一一八名



昨年行なわれた教養セミナー
(自死予防についての講習)



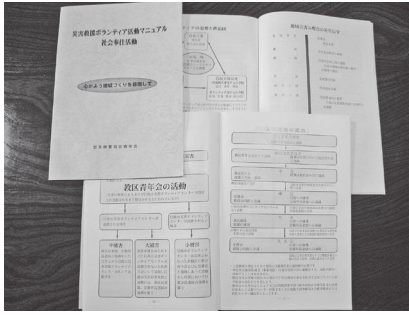
昨年行なわれた教養セミナー
(ヨーガ教室)

《発足》

岩手県曹洞宗青年会は「会員相互の連携を深め青年に与えられた知と力を結集し、つねに開かれた世界への活動を通して宗旨に根ざした人間形成をはかり、もって健全な地域社会の育成に寄与することを目標にする」という理念から昭和五十一年十月二十八日に発足し、会長以下会員百十八名が現在在籍しております。

《現在までの流れ》

平成七年に、二十周年記念事業



昨年4月に作成された「災害救援ボランティア活動マニュアル」



昨年7月12、13日に開催された「みちのく緑蔭禅のつどい」参禅風景



昨年12月1日に行なわれた「歳末助け合い寒風托鉢」

として「イーハトーブ幼稚園」をスリランカのマウエリアに建設寄贈いたしました。スリランカの経済的に恵まれない環境の子ども達に幼児教育の場を提供するため、地元のポートゲルビハーラ寺院や、現地のライオンズクラブの協力のもと建設され、現在も支援交流を行なっております。

平成十七年には、三十周年記念として例年開催されております「みちのく緑蔭禅のつどい」第四十一回開催におきまして「法脈

会」を挙行いたしました。本来一泊二日の日程を二泊三日に変更し、百七名の戒弟参加者をむかえでの大受戒会となりました。

また、近年の阪神淡路大震災、新潟県中越沖地震の災害報告等を受けまして、平成二十年春に「災害救援ボランティア活動マニュアル」を作成し、県内各寺院ならびに各地域の社会福祉協議会へと配布いたしました。これによって、会員の災害緊急時の対応、連絡の円滑化と、救援活動に対しての心構えの

徹底化を図っております。実際、昨年の「岩手・宮城内陸地震」では、マニュアルにしたがって被災状況の確認と、会員有志による救援ボランティアを行っております。

《現在の活動》

当青年会の活動内容といしまして、まず挙げられるのが盛岡市報恩寺様を会場として開催される「みちのく緑蔭禅のつどい」です。この参禅のつどいは四十四回を数えており、今回は二十九名の一般参加者を迎えての参禅会となりました。

年末には、県内各地区持ち回りで「歳末助け合い寒風托鉢」を実施しております。昨年は遠野市大慈寺様を会場として、古い町並みの残る遠野路を歩き、集まりました浄財は社会福祉協議会へと寄付させていただきました。

年二回の教養セミナーの開催（昨年は、自死予防についての講習、ヨーガ教室を行いました）や、各地区持ち回りのスポーツ大会、

懇親会等を通して社会に対しての我々青年僧侶のあり方を学ぶと共に、会員同士の連携を深める活動を行なっております。

その他活動につきましては、岩手県曹洞宗青年会ウェブサイト「GANSOUSEI.COM」におきまして、活動報告、当青年会機関紙「曹青通信いわて」バックナンバーの閲覧等が行えるようになっておりますので、お気軽にお越しください。

<http://www.gansousei.com/>

昨年は、「岩手・宮城内陸地震」「岩手県沿岸北部地震」がたて続けに発生し、皆さまより沢山の励ましのお言葉をいただきました。この場をお借りいたしまして御礼申し上げます。

今後とも会員一同、一丸となりまして精進に努める所存であります。どうか今後とも、更なるご指導・鞭撻をお願い申し上げます。

合掌

第六回執行部会

第七回理事会報告

・第六回執行部会

平成二十一年二月十八日 十五時二十分～十八時二十分

於 曹洞宗檀信徒会館二階仏間

二月十九日 十時～十一時三十分

於 曹洞宗檀信徒会館三階菊の間

・第七回理事会

平成二十一年二月十九日 十四時～十八時三十分

於 曹洞宗檀信徒会館三階菊の間

・理事会出席者…理事…八名、執行部…十六名、監事…一名



芳村会長による開会の挨拶

右記の日程で執行部会が行われ、引き続き理事会が開催されました。理事会では、芳村会長による挨拶の後、以下の議事について報告・討議されました。

- 議事一 各委員会経過報告
- ・ 法務委員会
- D I G I ousei 『声明の手引き』について。現在、制作を終え、注文を受付中。
- ・ 総務委員会
- 花まつりキャンペーンの進捗状況。
- 各県曹青の活動報告集を作成し、全曹青ホームページ「般若」での紹介について。

・広報委員会

『そうせい』一四五号の編集状況について。

奈良千僧法要・禅文化学林D V Dの製作費等についての説明。



各委員会による活動報告

- ・ 青少年教化委員会
- 委員会企画「お坊さんとふれあおう」についての報告。
- 委員会の活動をまとめた冊子を作成し、僧侶が外に出て青少年とふれあう実践の参考資料について。
- ・ ボランティア委員会
- ボランティアのガイドラインの作成状況と発表について。
- 「ボランティア憲章(仮称)」の作成について。
- ・ I T 委員会
- ホームページ利用者数の報告。



管区理事から活発な質問・意見が提起される

今後、ホームページの更なる充実を図るとともに、教化に有効なI T技術の研究促進について。

途中、平成二十年度定期総会並びに禅文化学林のアンケートについて、中村副会長より報告がありました。

議事二 その他

- ・ 『そうせい』編集委託について
- 誌面の質の向上、経費、委員の負担軽減等の諸観点から、編集作業を外委託する予定。
- ・ 全曹青第十八期執行人事について
- ・ 災害救援体制整備について

現段階で素案は作成済み。来期の特別委員会で検討を継続。

- ・ 過去の全曹青資料について
- 資料のリストアップ、保管等についての検討。
- ・ 本年五月の中央研修会について
- 次期の基幹事業に関連する研修会を検討中。
- ・ 次回の千僧法要について
- 本年五月二十六日(火)に開催。
- ・ 奈良千僧法要・禅文化学林D V Dサンプル版の試写。
- 各報告事項について活発な議論が交わされ、長井副会長の挨拶をもって閉会となりました。

管口法衣仏具店ならではの……

技の粹

御来店お待ちしております。

株式会社 谷口法衣佛具店

〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1 1F

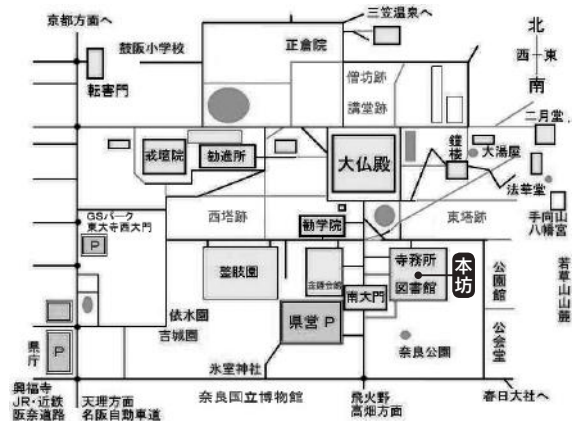
TEL: 03-7511-9741

管口法衣佛具店 本店

仏法興隆花まつり千僧法要

主催：全日本仏教青年会・全国曹洞宗青年会・南都二六会・東大寺

日 時：平成21年5月26日(火)
 10時～11時 アショカピラー清掃・荘厳
 12時45分 東大寺本坊出発
 13時 大仏殿入堂・登壇
 大般若転読法要
 14時 アショカピラー法要
 法要終了後、東大寺宝物展示説明会
 16時頃 懇親会（奈良市内）



参加費：法要 ￥1,000- 懇親会 未定

集合場所：東大寺本坊（掲載地図参照）

会 費：未 定

申込方法：各曹青会窓口よりお願いいたします

東大寺「花まつり千僧法要」

昭和63年4月26日、全日本仏教青年会、全国曹洞宗青年会、南都二六会主催により、海外僧を含めた全国各地の超宗派1,700名の僧侶が大仏殿に参集し、「花まつり千僧法要」が厳修されたのが始まりです。

その後、毎年4月26日には「青年仏教徒の日」として、大盧舎那佛の大悲による、仏法興隆、世界平和の実現を祈念した法要が営われています。

なお、本年は、都合により5月26日に行われます。

平成21年度 全国曹洞宗青年会定期総会開催のご案内

〈開催日時〉平成21年5月11日(月)～12日(火)

〈開催場所〉東京都港区芝2丁目5-2 曹洞宗檀信徒会館

〈総会プログラム〉

5月11日	9時～12時	理事会	研修道場
	14時～17時	定期評議員会	研修道場
	18時～20時	懇親会	桜の間
12日	10時30分～12時	中央研修会	研修道場
	13時30分～16時	総会	研修道場

〈中央研修会〉「いのちの声に耳を澄ます」～電話相談事業の可能性を探る～
 詳細は11ページを参照してください。

★出席のお申し込みについては、各都道府県・各所属青年会の評議員宛に所定の用紙を送付いたしますので、お取りまとめの上、本会事務局迄ご報告いただきますようお願いいたします。

☆多数のご参加・ご出席をお待ちしております。

大会名 四国曹青管区大会

テーマ 『これからの寺院のかかえる諸問題を考える』

今後の寺院運営と後継者育成について

開催日 平成二十一年一月二十七日(火) 午後一時打ち出し

会場 東京第一ホテル松山 コスモホール

四国地区曹洞宗青年会管区大会が、一月二十七日に愛媛県松山市の東京第一ホテル松山を会場に開催され、ご来賓の各御老師、管内御寺院様、寺族様、青年会員など約八十名のご参加をいただきました。今回は、『これからの寺院のかかえる諸問題を考える』と題し、今後の寺院運営と後継者育成について話し合われました。



本土一真四国曹青会長の導師により式典が始まった

まずは、四国曹青 本土一真会長を導師に仏祖諷経が厳修され、引き続き同会長による主催者挨拶、そして、来賓を代表して四国管区長 平 賢徳老師および全曹青会長 芳村元悟師よりご祝辞を頂戴いたしました。

第一部は、青年宗侶、寺族、計五人にテーマに沿った意見発表をしていただきました。発表の概要は以下のとおりです。

(発表概要)

愛媛県今治市

観音寺副住職 上本英昭師

▽人のために寺院を活かすことが必要だ。授戒会を通じて、寺とのつながりが密になる。例えば、ホスピス(末期ケアの施設)を立ち上げ、心のケア、無常観を説いていく。▽葬儀は、元来寺院主体で執り行うべき。葬祭業者に頼らず、例えば分区(組寺)等で、これに取り替わる施設を立ち上げる。これにより、兼職の副住職、寺族、一般の雇用も生まれるのではないか。▽現世利益を方便として、霊場会の設立、御祈祷等

人びとを寺に寄せることにより、布教する場所を増やしたい。特に青年僧は布教のスペシャリストを目指すべきだ。

愛媛県西予市

安楽寺副住職 水谷充賢師

▽お布施の金額など、一般の方との感覚のズレがあるのではないかと。▽選ばれる僧侶、寺院になる努力。▽透明な会計報告(完全な公開)。▽不況の時代だからこそ、仏教の力を発揮する。求めるところの方の心の裏(本心)を読み取る僧侶になる。

高知県須崎市

元亨院徒弟 宮本隆弘師

▽宗教離れに対し、法話などを通じてコミュニケーションを図り、寺院に気軽にきてもらう関係を築く。▽実際に、法事の際に法話の義務がある宗派もある。難しい話ばかりではなく、等身大の法話を身につける。そのためには、同世代の宗侶同士による研修会や交流会の開催。▽後継者育成については、進路を考える年頃の同環境(僧侶の子弟)の交流会などで、



それぞれの立場からの発表で対応策が検討された

悩みを相談したり、励ましあったりする環境をつくる。

愛媛県北宇和郡

玉泉寺寺族 伊藤ゆみ子氏

▽義父が体調不良により退董、その後住職と校長を兼職していた夫の急死。長男が大学卒業、次男が高校卒業の頃だった。二人とも得度を受けていなかった。現在、長男が近隣の御寺院様の得度を受けたが、教員として小学校に勤務している。檀家が少なく、兼職で生計を保っており、僧堂安居が難しい。▽お布施の意味について、檀家に理解してもらうよう努め、僧侶として自信を持って取り組んでほしい。

愛媛県松山市

法龍寺寺族 仁田晃子氏

▽住職の留守を預かる寺族が、檀

信徒とのコミュニケーションを深めることはとても大事で、寺檀制度が希薄化している都市部において、檀家離れを防ぐことに繋がる。▽心に悩みを抱えた人が増えており、松山市中心街にある法龍寺にも訪ねてこられる方がいる。心療の専門的な知識はなく、話を聞いて共感するだけであるが、だんだん明るくなって元気になってくれた。相談者は比較的まじめな方が多く、坐禅や写経を勧めている。▽坐禅会、写経会、梅花花等できることからやってみることが必要。寺院のためになるという気持ちがあれば、何でもできる。▽他人様から感謝される立場にあることはありがたい。

第二部では、アドバイザーとして四国管区長 平 賢徳老師、愛媛県宗務所長 星野尚禪老師、四国管区教化センター統監 矢野通玄老師、全曹青会長 芳村元悟師、愛媛県宗務所寺族会長 川本洋子氏に登壇いただき、四国曹青本土会長の進行で会場の参加者とともに意見交換を行いました。

(意見交換の概要)

寺院運営・希薄化した寺檀関係について

▽少子高齢化、都市部への人口流出により農村部の過疎化が急激に進んでおり、確実に檀信徒は減少し、寺院の運営が危ぶまれている。▽約四十年前、禅宗の僧侶も生き

とが必要だと司馬遼太郎氏より指摘されたことがあり、それ以来、坐禅会、お経を読む会、平和を祈る会などを開催し、お寺に向いてもらうよう努めている。

▽従来どおりご供養のためだけにお寺に来てもらうことには限界があるので、祈祷など現世利益を通じ、お寺に来る機会を増やすことも一つの方法である。分區(組寺)の各寺院が、その特色を活かし各一つでも行事を行うと、相互の収入になる。

▽自らが檀信徒に向く。法事に行つた際に、近所の檀家に立ち寄り声をかけている。

▽寺院と檀信徒がお互いに良かったと思える寺院づくり、環境づくりをする。

後継者問題・寺族問題について
▽宗憲に「住職は、徒弟を育成し



アドバイザーの方がたにはさまざまな意見をいただいた

なければならぬ」とあり、後継者育成は住職の義務である。
▽檀家が少なく、現在の収入では

徒弟を継がせるのは心配である。

▽在家出家者を直ちに弟子として寺院に受け入れられるか。

▽兼職をしなければならぬ寺院において、就職条件の難しさから、徒弟の僧堂安居が難しい。

▽後継者が決まる前に住職が遷化した場合などを考慮して、准教師の寺院が葬儀以外の法務ができるようにならないか。

そして、進行の本土会長より、今年一月発行の「そうせい」一四四号に掲載された中国管区大会の記事を紹介し、宗侶の質の向上などを訴えられました。さらに、新聞の記事を引用し、「核家族化が進む今、お経や戒名やお布施の意味などかつて常識といわれたことについて住職は説明責任を求められている。過疎化の波は我々だけの力

では避けられないことかもしれないが、檀信徒との距離を縮める方法はいくらでもあるのではないかと、のまどめが述べられました。最後に、四国曹青 宇野弘倫副会長が閉会挨拶を行い、幕を閉じました。

今大会のテーマはとても深刻且つ難しい問題で簡単な処方箋はありませんが、管区、宗務所、寺院など各団体とともに、今後この問題に取り組んでいきたいと思っております。

最後に、ご来賓の皆さま方、ご参加いただいた御寺院様および寺院様、ご支援いただいた皆さま、準備等でご協力いただいた会員各位に御礼申し上げ、大会の報告とさせていただきます。

合掌
(事務局長 高木 一晃)



中央研修会

『いのちの声に耳を澄ます』

電話相談事業の可能性を探る

五月十二日(火) 十時三十分～十二時

於曹洞宗檀信徒会館研修道場

第十八期の全曹青は、「電話相談事業」の展開を提案いたします。

現代社会は、人と人とのつながりが希薄化し、旧来のコミュニティが崩壊しつつあることが大きな特徴です。このことは、人びとに孤立感をもたらし、さらに、自殺者の増加等、現代的な諸問題の一因となつていると言われています。

そこで、私たちは『電話相談』に注目しました。電話の特徴は、身近で日常的であることです。そのため、孤立を感じている人を一人でも減らすために、一つの有効な手段になると考えています。

また、電話相談は一对一のコミュニケーションです。したがって、対機説法の半面である『いのちの

声に耳を澄ます』上でも適切な方法だと言えます。

今回の中央研修会では、電話相談事業について説明し、実際に電話相談の模擬体験を行っていただき、電話相談事業の可能性を探っていききたいと思います。

【研修内容】

- 一、電話相談について
なぜ、いま、全曹青による電話相談なのか？
趣旨と目的
- 二、電話相談の方法と利点
電話相談の方法と利点
- 三、電話相談の模擬体験(ロールプレイ実習)
- 三、全体の振り返り

304	自德庵様	60	如意寺様	新潟県第三	514	長命寺様	113	繁昌院様	241	福昌寺様	272	徳昌寺様	
321	善華寺様	鹿児島県	鹿児島県	514	長命寺様	127	繁昌院様	241	福昌寺様	272	徳昌寺様		
島根県第二		3	大中寺様	519	少林寺様	198	龍積雲寺様	山形県第二	307	太覚院様	281	月宗寺様	
17	円光寺様	長野県第一	長野県第一	581	大安寺様	203	洞雲寺様	332	常安寺様	284	善徳寺様		
23	法雲寺様	71	苔翁寺様	586	城鎮寺様	205	龍川寺様	337	満福寺様	302	天全寺様		
42	常德寺様	121	浄光庵様	646	城鎮寺様	214	龍川相徳寺様	346	長福寺様	311	全応寺様		
44	常祥寺様	123	真蔵寺様	779	名立日庵様	282	実耕西雲寺様	352	盤昌寺様	321	鏡徳寺様		
45	禅覚寺様	147	真徳院様	新潟県第四	新潟県第四	284	西統禅寺様	365	林泉寺様	323	恩得通寺様		
47	弘長寺様	158	満泉寺様	1	龍雲寺様	286	松巖寺様	372	昌伝庵様	336	円金浦寺様		
50	妙岩寺様	179	正福寺様	44	百観音寺様	295	洞仙寺様	408	普濟寺様	341	円金浦寺様		
54	雲松寺様	213	盛隆寺様	53	英林寺様	308	光巖寺様	山形県第三	438	西光寺様	北海道第一	25	龍穩寺様
63	龍覚寺様	224	玄照寺様	82	養廣寺様	324	観音寺様	468	宗伝寺様	29	法幢寺様		
80	長寿寺様	237	昌福寺様	110	鑑洞寺様	327	観音寺様	510	西光寺様	39	正覚院様		
98	法船寺様	250	自成寺様	183	瑞泉寺様	386	大徳寺様	611	妙楽院様	61	龍巖寺様		
99	禅慶院様	279	大徳寺様	185	見国澤寺様	392	金秀寺様	641	宝泉寺様	65	法合寺様		
141	本願寺様	300	威徳院様	186	龍太總寺様	407	海光明寺様	659	持地院様	90	法合寺様		
徳島県		306	城光院様	212	雲泉寺様	418	光明寺様	663	正徳寺様	94	曹源寺様		
26	城満寺様	340	自性院様	228	長楽寺様	432	耕田寺様	718	長瀨寺様	95	龍興寺様		
高知県		372	長昌寺様	259	常楽寺様	岩手県	岩手県	728	泉宝寺様	96	観音寺様		
8	永禅寺様	長野県第二	長野県第二	281	常楽寺様	2	祇陀寺様	秋田県	6	妙覚寺様	254	北大寺様	
愛媛県		375	龍雲寺様	733	光明寺様	25	宝積寺様	6	妙覚寺様	327	大有寺様		
116	法龍寺様	386	西福寺様	738	不動寺様	28	聖福寺様	22	源正寺様	353	龍宝寺様		
146	興雲寺様	400	長久原寺様	福島県	福島県	31	喜雲寺様	26	洞泉寺様	367	観音寺様		
福岡県		421	青原寺様	10	佛母寺様	32	吉龍寺様	30	嶺徳院様	481	常禅寺様		
16	喜久寺様	434	源長寺様	14	円通寺様	51	蟠福蔵寺様	31	本明寺様	北海道第二	101	天津寺様	
28	桂木寺様	460	法雲寺様	25	安洞院様	52	長壽寺様	49	乘江院様	113	万松寺様		
102	能満寺様	484	圓應院様	42	龍泉寺様	55	地蔵寺様	85	宝円寺様	120	大雄寺様		
103	天聖寺様	512	浄蓮寺様	61	興國寺様	56	長福寺様	104	普門院様	165	玉運寺様		
107	天徳寺様	537	正法寺様	63	昌源寺様	58	長福寺様	117	龍王寺様	171	開原寺様		
110	松山寺様	565	阿弥院様	67	昌福寺様	89	玉泉寺様	118	禅林寺様	179	全休寺様		
117	長安寺様	595	檢校庵様	68	大林寺様	111	西泉寺様	122	禅林寺様	181	永祥寺様		
146	禅福寺様	福井県	福井県	74	洞雲寺様	120	菅生院様	128	耕傳寺様	191	泰祥寺様		
178	常閑寺様	9	永昌寺様	85	松原寺様	122	石洞寺様	136	長谷寺様	239	禅昌寺様		
大分県		27	龍澤寺様	101	成願寺様	143	鳳凰寺様	141	香川寺様	248	總泉寺様		
8	豊音寺様	47	瑞祥寺様	104	成願寺様	166	宝泉寺様	157	香積寺様	279	西乘寺様		
76	福巖寺様	48	洞雲寺様	107	岳林寺様	171	光西寺様	162	祥雲寺様	391	禅昭寺様		
82	多福院様	69	龍門寺様	111	普光寺様	186	大光寺様	181	黄龍寺様	395	石雲寺様		
93	神光寺様	145	瑞林寺様	113	円照寺様	199	保寿寺様	192	善福寺様	445	龍澤寺様		
長崎県第一		197	洞源寺様	122	慈恩寺様	214	永沢寺様	203	善福寺様	465	玉安寺様		
1	皓臺寺様	218	常福寺様	131	天性寺様	232	龍昌寺様	209	瑞雲寺様	北海道第三	225	明光寺様	
8	円福寺様	265	西方窟様	139	徳成寺様	245	常楽院様	211	永泉寺様	229	東陽寺様		
78	宝泉寺様	石川県	石川県	153	長壽院様	278	宝鏡院様	212	霊仙寺様	242	祇園寺様		
88	慈光院様	79	東光寺様	154	雲月寺様	288	長福寺様	214	福昌寺様	244	報国寺様		
長崎県第三		132	定光院様	155	善通寺様	294	三光寺様	235	龍巖寺様	308	寿徳寺様		
94	円光寺様	富山県	富山県	175	天沢寺様	青森県	青森県	258	鳳来院様	235	常照寺様		
96	観世音寺様	81	長朔寺様	178	廣度寺様	17	普門院様						
101	南明寺様	83	永久寺様	226	常隆寺様	19	宗徳寺様						
佐賀県		167	観音寺様	230	大安寺様	20	盛雲院様						
34	栄蔵寺様	206	観眼寺様	254	同慶寺様	28	宝泉院様						
108	光明寺様	新潟県第一	新潟県第一	265	法輪寺様	31	陽光院様						
118	養寿寺様	311	大慈寺様	278	浄門寺様	39	正法院様						
144	世尊院様	325	興善寺様	297	蘭秀寺様	69	常現寺様						
168	常楽寺様	331	東岸寺様	304	梵音寺様	98	東光寺様						
181	本覚寺様	358	円光寺様	370	秀長寺様	100	澄月寺様						
194	普恩寺様	373	常福寺様	372	恵倫寺様	108	常光寺様						
249	正蔵寺様	382	光照寺様	374	常徳寺様	110	長昌寺様						
熊本県第一		383	瑞泉寺様	377	宝積寺様	144	萬松寺様						
3	報恩寺様	393	曹源寺様	406	浄泉寺様	188	興雲寺様						
48	神照寺様	407	長興寺様	宮城県	宮城県	山形県第一	山形県第一						
60	含蔵寺様	412	甌洞庵様	4	円福寺様	14	耕雲寺様						
64	玉祥寺様	439	龍興庵様	20	裁松院様	32	安養寺様						
熊本県第二		453	龍沢寺様	22	光寿院様	52	柳澤寺様						
79	向陽寺様	460	龍谷院様	24	妙心院様	101	長泉寺様						
88	明徳寺様	496	長日寺様	25	龍泉院様	142	陽春院様						
92	宗心寺様	729	観音寺様	41	耕田寺様	151	長谷寺様						
宮崎県		782	観音寺様	49	化度寺様	155	岩松院様						
6	祐国寺様	新潟県第二	新潟県第二	69	見松寺様	182	養源寺様						
22	大雄寺様	702	江西院様	71	光西寺様	214	長泉寺様						
53	帝釈寺様			83	向泉寺様	216	繁瑞雲院様						





平成20年12月～平成21年2月

東 京 都	154	長 松 寺 様	164	正 法 寺 様	138	龍 興 寺 様	366	宝 長 寺 様	94	黄 梅 寺 様	
25	慈 眼 院 様	161	建 福 寺 様	182	龍 心 寺 様	219	靈 岩 寺 様	628	奈 良 県	興 大 寺 様	
48	仙 翁 寺 様	404	満 讚 寺 様	197	長 龍 寺 様	388	神 龍 寺 様	629	5	葉 師 寺 様	
54	萬 福 寺 様	418	全 久 院 様	千 葉 県	399	寛 沢 寺 様	635	1037	18	宝 泉 寺 様	
79	保 善 寺 様	434	安 養 院 様	7	成 道 寺 様	551	永 澤 寺 様	1088	25	兵 庫 県 第 一	
86	天 德 院 様	436	陽 雲 寺 様	8	信 香 院 様	556	德 林 寺 様	1191	5	永 昌 寺 様	
105	鳳 林 寺 様	埼玉 県 第 二	238	松 林 寺 様	559	圓 泉 寺 様	1191	9	9	三 宝 院 様	
119	泉 龍 寺 様	238	松 林 寺 様	10	法 華 寺 様	静岡 県 第 二	684	684	55	長 命 寺 様	
266	蓮 生 寺 様	247	松 岑 寺 様	12	宗 德 院 様	229	花 井 寺 様	723	287	向 榮 寺 様	
278	高 乘 寺 様	248	長 泉 寺 様	17	長 光 寺 様	230	西 漸 寺 様	783	302	月 照 寺 様	
309	天 寧 寺 様	248	長 泉 寺 様	20	長 光 寺 様	233	法 住 寺 様	815	308	宝 珠 寺 様	
311	妙 光 院 様	261	谷 雲 寺 様	25	林 泉 寺 様	328	西 光 寺 様	816	374	成 国 寺 様	
313	聞 修 院 様	271	龍 泉 寺 様	28	永 昌 寺 様	329	松 音 寺 様	819	375	金 剛 寺 様	
317	龍 雲 寺 様	320	西 光 寺 様	29	静岡 県 第 三	静岡 県 第 三	江 福 院 様	841	393	安 養 寺 様	
356	宝 蔵 寺 様	331	曹 源 寺 様	34	成 因 寺 様	603	育 清 院 様	902	399	医 王 寺 様	
389	立 川 寺 様	355	金 泉 寺 様	35	江 松 庵 様	608	慈 眼 寺 様	愛 知 県 第 三	兵 庫 県 第 二	121	德 壽 寺 様
大 辻 しのぶ 様	460	宝 正 寺 様	360	天 正 寺 様	608	養 勝 寺 様	愛 知 県 第 三	411	121	德 壽 寺 様	
神 奈 川 県 第 一	群 馬 県	73	德 昌 寺 様	68	光 明 院 様	634	福 田 寺 様	431	135	弘 誓 寺 様	
323	高 長 寺 様	73	德 昌 寺 様	76	極 樂 寺 様	699	報 恩 寺 様	557	173	瑞 雲 寺 様	
神 奈 川 県 第 二	83	常 仙 寺 様	90	萬 松 寺 様	739	世 樂 院 様	1105	1105	188	興 禪 寺 様	
1	本 覚 寺 様	99	龍 傳 寺 様	95	善 勝 寺 様	832	楞 嚴 寺 様	1106	211	葉 師 寺 様	
2	西 有 寺 様	111	雲 林 寺 様	198	龍 眠 寺 様	869	仙 翁 寺 様	岐 阜 県	223	龍 蔵 寺 様	
4	宗 興 寺 様	194	善 宗 寺 様	209	窓 窓 寺 様	870	宝 鏡 寺 様	38	227	臨 滝 寺 様	
16	正 観 寺 様	257	長 伝 寺 様	212	円 通 寺 様	1194	最 勝 寺 様	127	270	洞 淵 寺 様	
27	東 林 寺 様	294	海 源 寺 様	243	積 名 寺 様	1197	増 福 寺 様	162	276	新 宮 寺 様	
36	円 福 寺 様	296	宝 泉 寺 様	272	松 蔵 寺 様	1202	清 樂 寺 様	167	岡 山 県	105	長 松 院 様
71	随 流 院 様	309	永 福 寺 様	302	法 雲 寺 様	1208	正 宗 寺 様	203	105	長 松 院 様	
81	貞 昌 院 様	320	龍 源 寺 様	37	栄 林 寺 様	1228	増 德 寺 様	240	128	楊 柳 寺 様	
83	正 翁 寺 様	栃 木 県	22	龍 蟠 寺 様	1234	松 久 院 様	245	245	131	濟 渡 寺 様	
92	良 長 院 様	22	龍 蟠 寺 様	276	洞 光 寺 様	1243	良 守 寺 様	三重 県 第 一	140	明 本 寺 様	
119	泉 秋 寺 様	30	永 林 寺 様	469	可 睡 齋 様	1302	三 重 県 第 一	24	140	明 本 寺 様	
127	寿 昌 寺 様	30	永 林 寺 様	482	1335	福 正 寺 様	31	24	3	養 德 院 様	
131	乘 福 寺 様	51	豊 栖 院 様	558	静岡 県 第 四	1061	永 心 寺 様	37	17	存 光 寺 様	
埼玉 県 第 一	13	71	明 豐 寺 様	静岡 県 第 一	1097	保 福 寺 様	37	48	22	光 禪 寺 様	
13	宝 泉 寺 様	80	長 安 寺 様	6	1112	大 聖 寺 様	48	132	26	正 福 寺 様	
32	東 光 寺 様	86	妙 慧 寺 様	9	1129	大 安 寺 様	144	144	34	吉 祥 寺 様	
49	昌 福 寺 様	94	天 性 寺 様	27	1140	隨 緣 寺 様	166	166	78	昌 源 寺 様	
58	真 淨 寺 様	106	實 相 院 様	40	1143	竹 林 寺 様	188	188	106	信 光 寺 様	
59	長 龍 寺 様	132	宗 泉 寺 様	50	愛 知 県 第 一	金 剛 寺 様	203	203	135	鳳 林 寺 様	
97	福 嚴 寺 様	茨 城 県	49	雲 漸 寺 様	34	伝 昌 寺 様	213	213	152	雲 龍 寺 様	
106	光 嚴 寺 様	49	雲 漸 寺 様	162	58	聚 福 院 様	240	240	177	功 德 寺 様	
110	香 林 寺 様	76	雲 集 寺 様	198	70	慈 濟 寺 様	269	269	185	明 福 寺 様	
116	梅 田 寺 様	113	常 晃 寺 様	209	75	松 音 寺 様	275	275	187	仙 房 寺 様	
123	正 明 寺 様	119	釣 船 寺 様	212	91	法 持 寺 様	276	276	山 口 県	1	禪 昌 寺 様
				243	94	法 正 寺 様	三重 県 第 二	389	1	禪 昌 寺 様	
				272	96	全 隆 寺 様	滋 賀 県	389	44	東 林 寺 様	
				302	102	月 笑 寺 様	35	35	86	興 元 寺 様	
				370	120	宝 珠 院 寺 様	慈 眼 院 様	142	142	彌 勒 寺 様	
				482	131	天 年 寺 様	慶 徳 寺 様	172	172	広 功 山 寺 様	
				558	147	成 道 寺 様	201	201	212	功 山 寺 様	
				6	152	龍 谷 寺 様	京 都 府	229	229	妙 榮 寺 様	
				9	158	秀 伝 寺 様	11	11	鳥 取 県	30	長 通 寺 様
				27	163	清 安 寺 様	70	70	30	長 通 寺 様	
				40	170	宝 生 寺 様	73	73	32	吉 成 寺 様	
				50	172	前 熊 寺 様	171	171	48	讓 伝 寺 様	
				61	182	觀 昌 寺 様	236	236	80	定 光 寺 様	
				67	202	世 尊 寺 様	256	256	143	瑞 応 寺 様	
				112	207	萬 溪 寺 様	354	354	146	妙 栄 寺 様	
				131	222	本 光 寺 様	355	355	156	福 嚴 院 様	
					261	藥 師 寺 様	367	367	159	大 祥 寺 様	
					275	泉 德 寺 様	389	389	163	雲 光 寺 様	
					293	康 勝 寺 様	大 阪 府	10	168	聖 福 寺 様	
					296	大 吉 寺 様	梅 旧 院 様	31	185	源 泉 寺 様	
					309	常 宿 寺 様	31	31	195	普 音 寺 様	
					313	長 松 寺 様	38	38	島 根 県 第 一	209	円 通 寺 様
					323	龍 潭 寺 様	39	39	231	岩 瀧 寺 様	
					340	興 禪 寺 様	69	69	282	瑠 璃 寺 様	
					354	広 濟 寺 様	88	88			

委員会紹介

広報委員会

委員会活動

広報委員会は、全国曹洞宗青年会(以下、全曹青)発行の広報誌『そうせい』の編集並びに定期発行を活動の主体としています。

『そうせい』の掲載記事に関しては、改めて各委員会並びに各曹青会の活動紹介を主体とした記事編成に努め、さまざまな読者の要望に応える形の誌面作りを心掛けました。また、会報誌としての役割に比重をおきながらも、どのような方にも伝わるような視点に立ち、より平易明快な記事をめざし広く報せるよう努めて参りました。

掲載記事への思い

先ず、広報誌『そうせい』の前身であります、昭和五十年全曹青の発

足時から続いた『曹青通信』の所感から筆を進めてみたいと思います。

各期の『曹青通信』へ目を通しますと、掲載されている記事や事業が先進的で格調高く、宗門の威厳を強く感じたというのが率直な感想でした。なかでも、発足時の『曹青通信』に、当時の宗務総長田辺哲崖老師が綴られた『時代の要請に答えよ』と題したコラムに「道心の発露として、社会に働きかけ、またこれが青年会活動のバックボーンとなりうるものとしていただきたい」と記されていたことが印象的でした。時代の流れは変わっていても、時の青年宗侶が何かに疑問を持ち、考え抜いた事業の本質的な礎においては、大きな変化がないのではなからうかと感じた次第です。

昨今における情報量の多さを当時と比較すると、当然取捨選択の多い現代の方が有利と考えられる

かもしれないが、正直なところ情報量の多さに混乱をきたしているのが実状です。その情報が氾濫する中において、どの記事や事業が他のメディアや団体との区別化が図れるのかが、今期最初の課題でした。そこで、編集方針としては、各曹青会の活動報告を主としながらも、賛否両論があることは承知の上、仏教理念を根底にした多角的な様相の特集と記事編成に取り組んで参りました。たとえ少数でも、各人の活動契機に繋がればという一心で掲載してまいりましたが、思い及ばず来期の広報委員会に託したいと存じます。

9	380	2008-7-3 11:45:23	kawamura	11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-c-design
144号 校正状況				
8	345	2008-11-21 12:18:00	itakura	01-02-03-04-05-06-07-08-09-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-c-design
9	354	2009-1-8 9:31:25	kawamura	145号 校正状況
7	314	2009-3-25 17:28:55	kawamura	01-02-03-04-05-06-07-08-09-10-11-12-13-14-15-16-17-18-19-20-21-22-23-24-25-26-27-28-c-design
81	308	2009-3-14 22:21:42	fujiwara	
19	59	2009-3-23 16:56:13	c-design	
スレッド投稿 最終投稿				
11	66	2009-3-24 6:16:23	itcommittee	
スレッド投稿 最終投稿				
4	9	2008-7-1 13:28:20	itcommittee	

各委員コメント

委員長・河村 康仁



(千葉県曹洞宗青年会)
これまで第十五期からの六年間、微力ながら広報委員会の一員として編集業務にたずさわって参りました。特に、今期は委員長という立場を力量不足ながらも拝命し、心強い委員会スクラムを組めたことにより、至らないうところもありましたが無事に努めることができました。法縁に対し、感謝の一言に尽きます。
二年間、我われ若者の一活動をあたたかく見守っていただいた読者の皆さま、誠に有り難うございました。

副委員長・板倉 省吾



(いずも曹洞宗青年会)
今期の活動で「あまみずのタイアローグ」を担当し、打ち合わせの中で飯島師から色々なお話を伺い、今まで私が知り得なかった尼僧さんの現状を多く知ることが出来ました。四衆という僧団構成について、改めて深く考えたい期の中でした。同じく担当した「そうとう衆列伝」では、長い伝灯の中で異彩を放つたと思われる禅傑たちを取り上げました。伝灯とは一灯の連なりであり、私自身も、その一灯としての誇りと明るさを再確認しました。何れも、全曹青という大きな組織の中で、少数の読者でも良いから深く腑落ちする記事を、と志向したのですが、それなりの反応、無反応を賜ることが出来ました。誠にありがとうございました。

副委員長・青野 貴芳



(曹洞宗静岡岡第一宗務所青年会)
前期より二期に渡って広報委員を務めさせていただきました。この間、さまざまな記事を担当させていただきました。二期十六号を通して掲載することができました。今の時代に合わせた坐禅のあり方を模索することが必要であろうという個人的な思いから企画させていただきましたが、公益性も高いと信じて担当してまいりました。今思えば、独りよがりな部分も多々あったのではないかと慚愧の念に堪えません。しかしながら、このような、やや冒険的かつとも思える企画をお許しいただいた

た読者のご寺院様等、並びに、宗門の寛大さに対し、心より感謝申し上げます。

その他、到らない点多々あったかと思えます。お支えいただいた皆さまに、深くお詫び申し上げますとともに、重ねて御礼申し上げます。ありがとうございました。

委員・志保見 道一 (個人会員)



委員・吉田 義弘



(宮城県曹洞宗青年会)
二年間、皆さまのおかげで無事勤める事が出来ました。今後、この経験を活かして参りたいと思

委員・松岡 広也



(曹洞宗静岡岡第一宗務所青年会)
広報委員としてこの二年間で本当にたくさんの方の力を借りて御礼申し上げます。

『そうせい』の編集について

最初に、編集作業の取材手法・作業効率・誌面の視覚的向上等について見直しを図り、今期から新たな編集作業を導入しました。それは、IT委員会との協働事業である、ブログ形式による編集作業であります。(図1参照)

こちらは、「ZENSOUSEI on Internet」の頭文字をあしらい「Z.O.I」と称します。特徴は、各人がアップロードしたデータの共有が可能なことです。更に、委員会内や各委員会・執行部・理事関係者がログインさえすれば、誰でも閲覧することができる上で、組織内部のコミュニケーションをはかることを念頭に当委員会では編集業務に運用しました。

この結果、メールでの送受信における確認作業のタイムラグが解消され、なおかつインターネット



〔図1〕

が見られる環境であれば、すぐに確認がとれることにより編集の作業効率が大幅に向上したと実感しております。

その運用の理由とは、現在まで紡がれてきた全曹青各期の諸先輩からの法灯を消さぬようにと考え、委員会の一人ひとりが、日々の檀務などと共に片手間にしか作業できない状況下において、今期の委員会とはより、今後の会員諸師への人的負担軽減に繋がればと考えたからです。もちろん、コンピュータを使用しなければできないことではありますが、たとえコンピュータを使用できなくとも、情報交換は携帯電話にてでも行うことができます。それぞれの委員が誰かを補佐していく形は、今後も変わらないと信じております。

おわりに

『そうせい』発行について、今期の二年間を回顧しますと、当初

は委員会編成の着手から始まり、編集方針の検討・決定、取材・編集と目前の作業に邁進するしかありませんでした。しかし、そんな

没頭する中にとっても大きな法・ご縁に気づかされたのが事実です。これまで遅延することなく定期発行ができたのも、ひとえに全国のご寺院様のご賛助と宗務庁教化部の皆さまのご協力、並びに各地域の曹青会の皆さまや全曹青執行部・理事・各委員会諸師の皆さまのご助言とご協力なしでは、でき得なかつたことと痛感しております。この場をお借りしまして、あらためて厚く御礼申し上げます。次号からは、第十八期全曹青の新体制にて広報誌『そうせい』も刷新されます。皆さまには、これまで以上にご指導ご鞭撻のほど賜りますよう、伏してお願ひ申し上げます。誠に有り難うございました。

頓首百拜

委員 関根 和明



(曹洞宗埼玉第一宗務所青年会) 今回第十七期広報委員会に僅かばかりでもかわらせていただいた者としていえることは、本当に勉強になりました。当といえ、皆の足を引っ張ってしまった方ですが、参加して初めて学んだことも多くありますし、志の高さを糧に精力的に活動していただけたこと、本当にありがとうございました。

委託委員 大村 則道



(曹洞宗静岡岡県第一宗務所青年会) 企画段階においては何のお役に立てませんでした。ネット環境のおかげで、自坊にいたまま本誌の校正作業に参加させていただき、全国御寺院様のさまざまなご活躍ご提言を先行的にいち早く、読者として学ぶことができたことは、無上のひとときでした。貴重な機会をいただきましたことに関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。

委託委員 大室 英暁



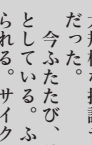
前期に引き続き二年間『そうせい』の委託委員を務めさせていただきました。誠にありがとうございました。編集会議にいつも遅れて駆けつけ、委員諸兄には迷惑のかけ通しでした。それでも、連載企画「そうとう衆列伝」の黒崎禪翁師の取材のために、群馬県館林市の雲龍寺様を訪ねさせていただき、伊東方己御住職様からさまざまなお話をお伺いできたことは、ありがたい思い出として記憶に残っています。百年以上も前に社会的「一悪」と対峙した宗侶がいたことを知り、宗門の未席を汚す者として誇りに思っていました。二年間のすべを書き綴ることはできませんが、編集の現場でいただいたご縁を大切に、経験を通じて今後の人生に活かしていきたいと思っております。二年間、ほんとうにありがとうございました。

委託委員 古山 健一



「反政府(軍事政権)的活動」とやらを理由に査証発給を拒否されて、最後に年少々が経過した。最後

委託委員 狩野 晃一



駒澤大学図書館に所蔵されている貴重図書をご紹介する「ネット」で愉しむ「禅籍サーフィン」を

委託委員 川口 高裕



(個人会員) この二年間、委託委員として『そうせい』の編集業務に携わる法縁をいただきました。編集会議では小さなことでも議論を重ねなければならぬ出版の難しさを学び、そして全国への取材でさまざまな方との出会いや新しい発見など本当に勉強させていただきました。微力ながらこの活動が宗門への一助となれたのであれば幸いです。支えていただいた全国の皆さま、誠にありがとうございました。



委託委員 藤原 敦



このたびはご縁をいただきました。皆さま、広報委員会のお手伝いさせていただきました。普段は仏教書の出版社に勤めながら、駒澤大学大学院の博士後期課程にて禅宗史の研究を行っております。この二年間、多くのことを勉強させていただきました。ご縁をいただきましたこと、御礼申し上げます。毎月の編集会議では後進くまで熱心な議論が行われ、参加諸師の真剣な姿勢に心打たれるとともに、全国のご寺院様からいただく多くの手紙から、その期待の高さを伺い、いつも気がひきまる思いでした。二年間、誠にありがとうございました。

新しい心理療法における

「気づき」の核心的役割

熊野 宏 昭

マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメント・セラピー

近年、心理療法（中でも実証性の高い認知行動療法）のかなり核心に近い部分で、仏教に由来するマインドフルネス（気づき、念）が注目され、人間の心理行動面を理解する視点、苦しみの連鎖から逃れるための方法、そして生きる方向性を見出していく必要条件として、活用されるようになって来ている。

本稿では、マインドフルネスと関連の深い心理療法の中でも、マインドフルネスを直接導入したのではなく、別の学問的背景から出発し結果的に非常に近い地点にたどり着いたという点で、読者の視野を広げる役に立ててもらえらると思われ、アクセプタンス&コミットメント・セラピー（ACT）について紹介したい。

ACTの基盤になっているのは、関係フレーム理論と呼ばれる言葉（言語行動）に対する学習理論である。人間が学習する際には、動物と共通する体験学習による方

法と、人間特有の言語学習による方法を使っている。

前者にはレスポナドント学習（例：梅干を見ただけで、唾液が出るようになる）とオペラント学習（例：いいことをした子どもを、ほめてしつけていく）が含まれ、それによって身につく行動を随伴性形成行動（随伴性とは行動と環境との相互作用の意味）と呼ぶ。

一方、言語学習は、言葉が使える人間だけに認められる学習形式で、それによって身につく行動をルール支配行動と呼ぶ。人間は、体験学習によるフィードバックがなくても、「どのような状況で、どんな行動をしたら、どんな結果が得られるか」の見通し（ルール）を言葉で学習し、それによって自分の行動をコントロールすることができる。この方法は予め用意されたルールに沿って行動できるの

でたいへん効率が良いが、一方でそのルールの内容が間違っているものもなかなか修正がきかないという大きな問題がある。つまり、言葉への依存度が高い

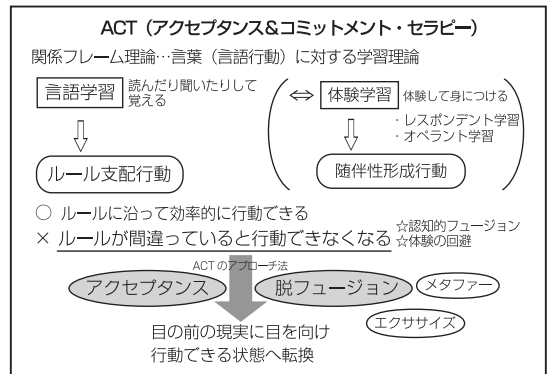
われわれ人間は、頭でつかちになつて、今ここで、やりたいこと、やるべきことが出来なくなつてしまふ危険性といふも背中合わせなのである。そこで、ACTでは、ルール支配行動が優位になつて動けなくなつてゐる状態から、随伴性制御（行動の結果によるコントロール）が正当に働くとアクティブな状態への転換を目指すことになる。

言葉と対象の双方向性と認知的フュージョン

そもそも、なぜルールという言語表現に行動をコントロールする力があるのかを追求していく過程で、言葉が持つ基本的な性質が明らかになってきた。その中でも最も基本的なものが「言葉と対象の双方向性」と呼ばれる性質である。

例えば、目を閉じて「おちゃー」と聞くと、湯飲みに入った緑色の液体から湯気がたつている様子が見え、口に入ると熱い感じがする。また、口に入ると熱い感じがする。また、口に入ると熱い感じがする。また、口に入ると熱い感じがする。

このことは、人間が言葉を使うことによって、動物にはないバー



の立役者として重視している。このことは、言葉を使つてものを考える際に、考えているという事実自体を忘れてしまつと（日常生活の中では通常自覚していないのだが）、そこで表現された内容と現実が容易に混同（フュージョン）されてしまつたということの意味している。つまり、人間の心の健康は常に脅かされる仕組みになっていると言つてよいことになるが、これは仏教における「苦」の認識と共通するものであろう。

刺激機能の転換と体験の回避

次に、言葉が持つもう一つの基本的性質である「刺激機能の転換」について説明しよう。言葉の基本的な働きは、多くの事柄（学習理論では、個体にとつての「刺激」と呼ぶ）の間に関係づけをすることである。そして、実物とその名前、ある刺激に対する評価・関連するイメージや気分、そして言葉同士の関連など、言葉は複雑なネットワークを作りながらバーチャルな世界を作り出している。しかし、このバーチャルな世界は、実は、ちよつとした関係づけが加わつてしまつたのである。

例えば、ある人が自然の中で散歩することが好きで、よく出かけていた山があつたとする。そうすると、ストレスの多い毎日の中でも山に出かけることを考えるだけで、ホツとして気分が和らぐという体験ができるであろう（このことと自体、言葉が持つ効用である）。

しかし、ある日、「あの山にはマムシがいて、最近も噛まれた人がいるそうだ」という話を聞いてしまったとしたら、今まで癒しのイメージだった山が、一気に心配の対象になってしまう。実際にそこにある「山」は、何も変わっていないのにである。



この「刺激機能の変換」が、先ほど説明した認知的フュージョンと組み合わせるとたいへんなことになる。つまり、ちょっと何か新しいことを思いつく度に、バリエーションが世界の様子が変わってしまうのだが、われわれはそれを自動的に現実そのものと見なししてしまうために、際限なく振り回さ

れてしまうのだ。特に自分に対して他と比較したり評価したりしている時にこれが起こるとたまらなくなる。そこで、それによって傷つきのを避けるために、さまざまな刺激に反応して生じる自らの思考や感情自体を回避しようとする「体験の回避」というもう一人の立役者が登場することになる。

先に述べた「認知的フュージョン」が考えていることに呑み込まれて我（＝見ている自分）を失ってしまうことだとすると、「体験の回避」とは傷つかないように心を閉じてしまうことである。しかし、その結果、皮肉なことにもますますネガティブな思考や感情に敏感になってしまう。例えば、不安になりたくないと思いついていたら、ちょっと気持ちが悪くさわさわしただけで、びっくりにしてさらに不安になってしまうだろう。

アクセプタンスと脱フュージョン
ACTでは以上で述べてきた「体験の回避」と「認知的フュージョン」に対抗するために、アクセプタンスと脱フュージョンというアプローチ法を取る。つまり、「心を閉じないで、目の前の現実（自分の心の中の思考や感情なども含む）そのものに気づきを向け、何も変えずにそのまましておく訓練」と、「自分がその時に考えているという事実を、常に気づいていく訓練」をしていくわけである。読者の皆さんは、以上の説明が、マインドフルネスそのものの説明と非常に共通していることに

気づいたであろうか。

つまり、実現する方法に違いがあっても、目指しているものはかなり共通していると言えるのだ。具体的にはさまざまな方法が使われるが、大まかに区分すると「メタファー」と呼ばれる例え話を使ってポイントの理解を図る場合と、「エクササイズ」と呼ばれる実地での練習によって体験的理解を図る場合がある。例えば、体験の回避を緩和するために、不安を必死で避けようとしている状態を、底なし沼に落ちて抜け出そうと必死でもがいている状態に例えてみたりする（底なし沼でもがけばもがくほど沈んで行ってしまうが、助かる可能性が高いのは沼の上に横たわって接触面積をなるべく広くすることである）。

また、エクササイズとしては、もちろん、マインドフルネス瞑想も重要な方法の一つということになるが、例えばごく簡単なものとしては、色々考えて気が重くなっていることに気づいた時に、自分が考えた内容の後に「〜と考えた」を次つぎに加えるようにするという方法がある。「俺って何の取り柄もないよな、と考えた」「だって何やっても失敗ばかりだしな、と考えた」「声をかけてくれる人も誰もいないし、と考えた」という具合である。これを行うことで、自分がそう考えているだけで、現実とは違うかもしれないということが見えてくるのだが、それによって、言葉の内容・現実・それを見ている自分の三者がフュージョン

している状態が解消することになる。

価値の明確化

ACTでは、以上のような手立てで言葉の毒抜きをした先に、その人が本当になすべきこと、本当にしたいことが出来る人生のあり方を想定している。そして、自分が生きていこうとする方向性や志を「価値」という概念で表現し、それを明確化していくことが、アクセプタンスや脱フュージョンと同じくらい（あるいはそれ以上に）重要であるとしている。価値の捉え方は、仏教における「智慧」や「八正道」とも通じるものであるが、西洋に生まれた学習理論に基盤を持つACTでは、より社会生活に即した側面が強調されている。

価値の明確化とは、結局どうしたいのか、どう生きていきたいのかを明らかにしていく作業なのだが、それを言葉で表現しようとする、これまでに説明して来たように、認知的フュージョンや体験の回避に邪魔されてしまい、偏りなく見極めることは容易ではない。つまり、ここでも脱フュージョンやアクセプタンス（＝マインドフルネス）が実現できていることが必要になるのである。その上で、さらに色々な工夫がされるのだが、その一つに「お葬式のメタファー」という方法があるので紹介してみよう。

これは、最初に「もしあなたが今死んだとしたら、集まってくれた人達はあなたのことを何と言うで

しよう」と聞き、次に「今度はもう何十年か生きて後で亡くなったとします。そのお葬式で、あなたは、集まってくれたみんなに自分のことをなんと行ってほしいですか」と聞く方法で、余計なことを考えていられない状況を構成して本音を引き出すことを目的としている。もしかすると仏教での在家の人に對する説教などにも、同じようなものがあるのではないだろうか。以上で、理論的基盤も実践方法も違っているACTと仏教や禅の間に、無視できないほどの並行性、共通性があることが理解してもらえたと思う。その理由は、両者の目指している方向性（＝価値）に共通した部分があるからとするのは、言いすぎであろうか。



熊野 宏昭（くまの ひろあき）

一九六〇年生まれ。東京大学大学院医学系研究科ストレス防御・心身医学（東大病院心療内科）准教授を経て、二〇〇九年四月より早稲田大学人間科学学術院教授。一六歳時よりサマタ瞑想を含むヨーガの実践を続けてきたが、二〇〇五年よりマインドフルネス瞑想に軸足を移した。臨床・研究面では、ACTなどのマインドフルネスと関連の深い新しい認知行動療法が専門。著書…「ストレスに負けない生活」（ちくま新書）、「二十一世紀の自分探しプロジェクト」（サンガ新書）

前

号で紹介したエピソード（懸想の僧への仕打ち、円覚寺での話）は、事実かどうか分からないが、同じ尼僧としてはそれほど胸のすく話ではない。男僧の中でご苦労されたと筆者は感じる。史伝作者は男僧であり、当時も女性差別は強かったであろう。優秀な僧侶である慧春尼に対して、もつと他の伝承が残されてもよいのではないかと思う。その中では、次の大雄山最乗寺三世大綱明宗禪師（？～一四三七）との話はなかなかうけがえる話である。

明宗禪師が酒匂というところで法を説いていたとき、その座に慧春尼も聴きに來ていた。そして、聴衆が帰った後、明宗禪師に密かに言われた。「貴僧は知恵もすぐれ、教えに明るい。しかし、残念ながら自らの安心ができていない」と。そこまで言われて明宗禪師はギョツとしたことであろう。更に「方向違いの修行をしています。慧明禪師のもとで学びなさい」と示唆したと、これは明宗禪

師の伝記に書かれている。

さて、慧春尼は火定によって人寂された。その場所は今でははっきりしないが、大雄山の三門前に薪を自ら積み、その上に坐して火炎裡に生涯を遂げた、と史伝に記される。いかにしての火定であつたか。その理由は史伝に記されていない。これは後世の者が、いろいろに考えるところだ。『法華経』二葉王菩薩本地品に、一切衆生喜に、一切衆生喜見菩薩が自らの身を灯明として仏に供養した話がある。これによるとみる説が妥当であろうと筆者も思う。ただ火定を選んだのは、修験道の捨身供養に火定や水定があるが、そのことも影響していることは考え得る。慧明禪師の弟子に三井寺の満

位の行者である道了尊者がいた。

慧春尼も道了尊者に出会った可能性は考えられる。道了尊者の亡骸はどこにもなかったとして、永遠にお山に生き続け、大雄山を守つていくのださると今でも信じられている。慧春尼にとつてこの道了尊者たちの修験道の教えも身近にあつたことであろう。燃えさかる炎の中の慧春尼に

「熱くはないか、熱くはないか」と夢中で呼びかける兄慧明禪師。

その兄に「冷熱は生道人の知るところにあらず」と叫び返す慧春尼。そして「恬然として火焔裡に化す」と記される。慧春尼をここまで駆り立たせずにいられたのか。真の理由は何であつたのか。これは、ひとえに衆生済度の願いがなくてはできない行為であらう。室町の時代、庶民は、貧しさや圧政に苦しみでいたことは想像に難くない。この頃も民衆を救おうという僧尼や聖が多くでている。慧春尼も、自らの身を仏に供養することによって民衆を救済してもらいたい、と燃えさかる炎の中で祈り願つたのではなからうか。死してなお、その誓願の生き続けることを願つた

② 慧春尼 華綾

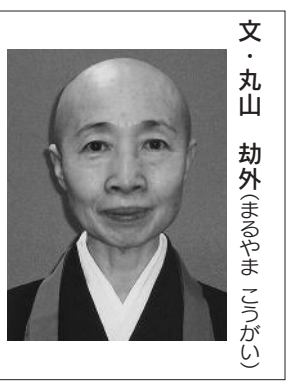


最終回

願いがなくてはできない行為であらう。室町の時代、庶民は、貧しさや圧政に苦しんでいたことは想像に難くない。この頃も民衆を救おうという僧尼や聖が多くでている。慧春尼も、自らの身を仏に供養することによって民衆を救済してもらいたい、と燃えさかる炎の中で祈り願つたのではなからうか。死してなお、その誓願の生き続けることを願つた

のではないか。現に大雄山の慧春尼谷には慧春尼堂が建てられていて、六百年たつた今でも、多くの人びとの願いを静かに聞いていくのださるのである。そして出家者たちには、人びとの安心のために、貴僧は何をなすのか、と問いかけているようでもある。

応永九年（一四〇二）五月二十五日火焔裡に示寂。世寿不明。



文・丸山 劫外(まるやまこうがい)
駒澤大学大学院博士後期課程単位取得満期退学。現在、曹洞宗総合研究センター宗学研究部門研究員。
慧春尼開創正寿庵前住職。
「華綾慧春尼さまの足跡」（「大雄」六十九号七十七号掲載）
「宗教の風光―余語翠巖老師遺稿集」編集（中山書房仏書林、平成十二年）
「訓註曹洞宗禪語録全書―語之為禪禪師語録外集」共著（四季社、平成十八年）
「雲と風と月と―尼僧の供養記」（中央公論事業出版、平成二十二年二月十五日発売）
画・山田 剛弥(やまだ たかひろ)



最終回

— 読者からのお便り —

8回に渡り連載してまいりました「寺族のテラス」は、今号で最終回となります。これまで、読者の皆さまよりお寄せいただいたお手紙等の中から、最後に下記の投稿文をご紹介します。ご感想をいただき締め括りとさせていただきます。

尚、来期からの『そうせい』においては、違う形で寺族様と寺院（宗門）との関係に着目し、継続的推考を全曹青全体として取り組みご報告いたします。

今後ともご指導ご鞭撻を賜りますよう、伏してお願い申し上げます。まことに有り難うございました。

お寺に住まわせていただいている一寺族です。

物心ついた頃、母が幼い私の手を引いて、毎朝近くの神社仏閣をお参りしていたのを憶えています。縫い物の得意な母は、道端のお地藏さんの赤い前だれを時どき作っては取り替えていました。祖母も母も商いの傍ら、よく石膏や粘土で仏像や観音様を作っていました。また、同郷の同級生で、お寺の住職になった者もいます。

ですから、私は商人の娘ではありましたが、お寺という存在は遠いものとは感じませんでした。大きな内仏様があるという感覚でした。

お寺に嫁いでまもなく、実父が病気で亡くなり、あとを追うように姪が事故で亡くなりました。もっと私に仏様を身近に感じなさいとでも言いたげに。それは、残された皆さまとともに精一杯生きなさいと言っているようにも思えました。

お寺にいらして下さる皆さまと、一緒にお茶を飲み、一緒に泣き、一緒に笑う。それが楽しみでもあり、一つの役割でもあると思います。

また、私は、3人の子どもを産み育てる機会を与えられました。世の皆さま、さまざまな修行をなさっておられますが、子育ても大きな修行と思えます。そして、子を持つことによって、同時に地元の皆さまと触れ合う機会も多くなるということを見ました。

さて、お寺に嫁いでからの率直な感想を語らせていただきます。

なんとも住職の外に出向く研修会の多いことか。

そして、その会費にはいつも驚きます。貧乏な商家育ちの私には、ゼロが1つも2つも多く思えるのです。学習研鑽しあう大事な会なのかもしれませんが、これでは小さなお寺はどうしているのでしょうか。

商いをしてきた時代は、品物を売ってお金をいただい

ていました。お寺は、その代わりに心を売らなければならないと思っています。妙な表現かもしれませんが、お布施をいただくのですから、皆さまにも施しを返さなければと思います。どのご寺院様も、さまざまな方法で悪戦苦闘なさっていることと思われます。

しかし、それにしても、葬儀のお布施額などは、地域性はあるでしょうが、労働者の半年間、いや1年間の給料ともいえるのではないかと思います。私たちは、そこから生活費をいただいて暮らしています。それを忘れている方はいらっしゃると思いますが…。

寺の法事などについても、いつも疑問に思うことがあります。玄関の入口に「寺院用」「一般用」という張紙がありますが、「檀家様用」とか「町の皆さま」等にしてはいかがかと。

私は、仏教を小さじひとつほど知りませんし、他のお寺の和尚様ともあまり接する時間がなく、世の中も知らない井の中の蛙です。その代わり、町のお檀家様の生き仏とたくさん巡り会っています。お供物が上がる度に、仏様に上がったものは仏の子どものものと言って、時間を見つけお茶を飲みに行っています。一人暮らしの方や、足腰が弱くお寺参りも出来ない人が多くおられますが、そのような方がたのお顔を見たいと思うからです。

大きなお寺の和尚様は、町に世に施しをたくさん出ると思って欲しいと思います。小さなお寺の和尚様は、町の人と多く会い、話が出来る時を与えてもらったとって欲しいと思います。

私の毎日が、こんな疑問や悩みの中ですが、時には喜び、時には悲しみ、時には御仏様の光に包まれていることを感じつつ、今日も町の人びとのお家を訪ねてみようと思っています。

合掌

編集部注

いただいたご意見の中にもありますが、「お寺同士のおつき合いにはお金がかかる」「お布施が高額だ」等、金銭面に関する疑問を持っておられる方は多数いらっしゃるように思われます。

その実態について、以下にいくつかのデータを挙げさせていただきます。

まず、葬儀の際のお布施額ですが、全国平均は48.6万円となっております（平成15年、日本消費者協会調査結果）。

一方、日本人の平均給与額は、約437万円（平成19年）となっております。両者は、現時点でも似たような数値でしょう。

また、宗門寺院の平均法人年収は、564万円（平成17年『曹洞宗宗勢総合調査報告書』（曹洞宗宗務庁））とあります。もちろん、規模や地域に格差はあると思いますが、決してお寺の経済が豊かでないことが見て取れます。むしろ、一般の方より収入が低いお寺の方が多いともいえるでしょう。

ネットで愉しむ
禅籍サーフィン

最終回

収蔵品紹介

『秘密正法眼蔵注解』

実にさまざまな資料を蔵している駒澤大学図書館から最後にご紹介いたしますのは、瑩山紹瑾禅師によります『秘密正法眼蔵』の漢文体の注釈書である『秘密正法眼蔵注解』です。ご存知の通り『秘密正法眼蔵』は瑩山禅師が古徳の悟則機縁十則を選集、また拈提されたものです。これに撝語・代語を以て古則及び瑩山禅師の拈提の

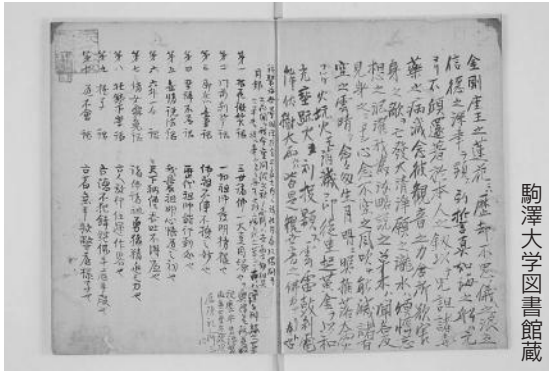
真意を提撕注解したものを『秘密正法眼蔵注解』と呼んでおります。本書の筆写時期は、十三丁裏の書き込みから一七四二年五月二十七日に記されたことが明らかであります。また、この丁までが『秘密正法眼蔵』の内容であり、この丁以降は内容を異にし、諸祖師の言葉が用いられ、簡条書きに記されています。

画面上で確認できることでありますが朱点などがついており、恐らく衆寮で用いられたものの一部と考えられます。これについては、裏表紙見返しの記述をご参照下さい。二年かけてご紹介してまいりました「ネットで愉しむ禅籍サーフィン」も、今回で最後となりました。皆さんのご研究やご興味に

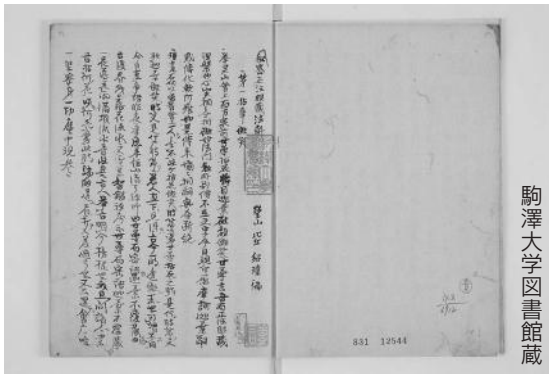
資するものとなったならば幸いです存じます。図書館貴重図書インターフェイスも一新され、より使いやすいものとなっております。是非、今後も多方面にご活用されますことをお願い申し上げます。

『駒澤大学電子図書館』

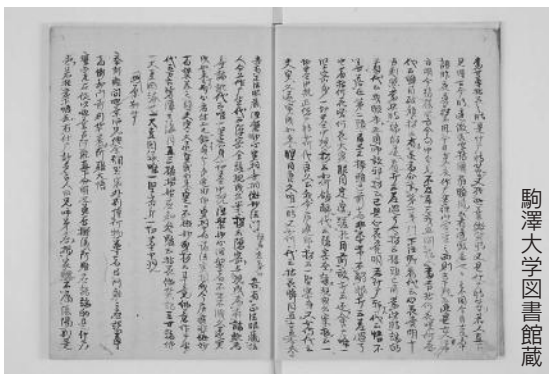
URL <http://www.komazawa-u.ac.jp/~toshokan/e/index.html>



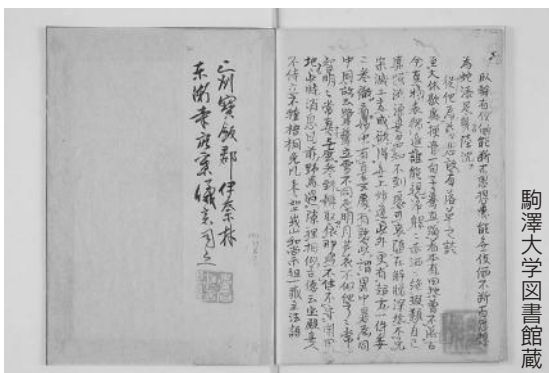
駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵



駒澤大学図書館蔵

両大本山御用達
梅花流法具販売指定店
法衣・装束・荘厳・神仏具・贈答用記念品

梅金商店
株式会社

(全国曹洞宗法衣同業会会員)

〈本社〉〒460-0011 名古屋市中区大須三丁目39番33号
(大須交差点東北側)
TEL (052) 241-0901(代表) FAX (052) 241-1904

株式会社
中央デザイン
CHUO DESIGN CO., LTD.

Desktop publishing
Print Industry

〒001-0010 札幌市北区北10条西4丁目 防災ビルB1
TEL (011) 716-4813
FAX (011) 716-4818
chuou-design@bz01.plala.or.jp

＊ そうせいサロン

哆々和々

一昨年の七月以来、この「そうせい」に連載コラム「哆々和和」を綴らせていただきましたが、いよいよ今回が最終稿となりました。

このコラムを続けさせていただいたことは、何よりも私自身にとって発見がありました。自分たちのしたいこと、してきたことを原稿という形を前にして整理する機会をいただいたということは、二年を一つの区切りとして歩んでいくうえで非常に大きな存在として、私の「羅針盤」となってくれました。

思えば、私自身これまでの時間の中でいつも「羅針盤」に助けられてきました。それは、時に「父」であり、学生時代の「友」であり、大学で導いてくれた「恩師」でもありました。毎日の生活の中において、私達は多くのことを考え実行し発言をし、そして、多くの人と関わっています。

そこには、自分でも気づかないうちに、基本的な自分の軸があり、それに基づいて価値判断が行われていると感じます。「羅針盤」は、その軸の部分が知らず知らずのうちに流されていっていることを教えてくれる、どれだけ自分の「我見(エゴ)」に振り回されているのかを知らしめてくれる存在でありました。だからこそ、思い切つて漕ぎ出せた毎日がありました。

第十七期全曹青は、自分たちの

全国曹洞宗青年会

会長 芳村元悟

編集後記

この『そうせい』という広報誌が、どこまで浸透しているかは把握できないはずなのに、いつもどのよ

うな反応があったのかを気にしていた頃を、今では恥じる思いです。どれだけの反応があるうとなかるうとも慎重に編集業務を遂行しなければならぬことが、自分の任であることに気づくには、時間はかかりませんでした。これまで、広報委員会に属した六年間は、『そうせい』の編集業務が生活の一部となり、迫ってくる締め切りに合わせて会議と編集を重ね、発行するサイクルだったことを振り返りますと、任を離れる今は嬉しくも寂しいという複雑な心境です。

最近では、情報の流通が活発化し、多種多様な価値観が混在していると思います。その中、本誌十四頁でご紹介した当時の宗務総長のお言葉のように「仏教」や「禅」を、どのよう

に時代の要求へ応えていくかが、常に我われの課題であると思えます。僧侶も同じく膨大な仏教典籍の情報に基づき、多種多様な仏教解釈をされていると思いますが、先徳の聴き写しをそのまま説いて必要に感じるのではなく、自身の参学による深い法の吐露が肝要なのではないかと考えます。

情報社会のいま、どのような要請にも、我われは法と縁起を説かなければならない使命があると思うと危機感で畏怖の念を抱かずにはいられません。

それらを模索する試みとして、来期の全曹青では新事業が展開する予定であります。今後も、妥協することなき挑戦を続け、若さという力を活動へ変換して精進弁道して参ります。読者の皆さまには、二年間我われ若者の活動に対して、思うところも多々あったと思いますが、寛大なお心でご拝読いただき、誠に有り難うございました。

同じく、編集にたずさわっていた

だいた関係者の皆さまにも深く感謝申し上げます。

第十七期広報委員会

委員長 河村康仁 九拜

「そうせい」に対するご意見・ご感想、また、発

送部数に関するご要望は、左記の連絡先までお願いいたします。

○あて先

〒二七三〇八六五

千葉県船橋市夏見六二二三三 長福寺内

そうせいサロン係

FAX (〇四七)四三六六八〇八 河村まで



もう一度ゆうよ、ありがどう。

〈最終回〉

今、飽食気分にとつぷりと浸からないために



平成十六年（一二六号）から始まり、五年にわたって『菜食健美』と題して連載してきましたが、今号にて最終回となります。

この誌面上では勿論、文字で読者に料理のことを伝えておりますが、文字で伝えるのは中々容易な事ではなく、読み手一人ひとりに響くようにと、私なりに工夫して綴ってきました。

思い返すと、エコクッキングとしてのコラム「捨てればゴミ 活かせば菜膳」の後を受けてから始まり、ただ美味しい（味と食感ばかりにとらわれた）食べ物を作るだけが料理ではないはず。食材を使い切ることを美学と捉えれば、おおげさと指摘を受けるかもしれません。しかし、今現在も我われは飽食気分が抜け切れていないのが事実でしょう。日本は、食糧自給率四〇パーセントを下回っているのが現実でありながらも、実感が湧かずに目を背けようとしている今日です。食材を活かすことからはじまるのが智慧（先人の教えに学

ぶ）の第一歩であると思います。

修行時代、宿題提出期限付き？

永平寺での修行時代に出会った諸役寮老師（雲水教育の老僧）に、『典座教訓』の原文と解説文の書き写しを命じられたことを思い出します。

当時二十代の雲水であった私は、学生でもないのに、宿題を出されたように感じ、半分呟きながら取り掛かったのが率直な感想でした。しかも、その時の配属移動のタイミングが典座寮（寺の台所）とは思っていなかったため、尚更と感じていました。四と九の付く日に（この日は、各自私用にあてられる時間）、老師の部屋を伺い、個人面談のような一対一で、窮屈な時間を過ごしたことを思い出します。

数ヶ月後、老師のご指導もあり、ようやく読破することになりましたが、当時はやり遂げたという達

成感が残るだけでした。

やがて、永平寺を去り、今ようやく、この『典座教訓』と出会えた貴重な時間を与えてくれたというよりも、一雲水である私に老師が丁寧な教えてくれたことが、あらためて有難いことだと深く感じる歳になりました。この時に、『典座教訓』や他の祖録などを学んでいなければ、今日の私はなかったでしょう。この体験（縁）こそが、今の布教活動の基礎となり、その時の『典座教訓』は、上手ではない自分の字で書写・書き込みをしてあるものの、現在は宝物であると同時にお守りとなっております。

シンプルに考え、

丁寧に生きる

ここ最近、書店の料理本のコーナーには、やたらと「基本」と題したものが多く目立つようになっているのは私だけでしょうか？
和食・洋食を問わずに、あえて取り込んでいるようにも伺えます。表向きだけ仕上げて、基本が大事であり省くことのできない大切さを伝えたいのでしょうかね。かつて対談でお話させていたいた東京南麻布、「分とく山」の野崎氏からいただいた激励の一言を思い出します。「典座教訓は、無駄なものそぎ落としたものの



秋田県曹洞宗青年会主催「平成二十一年度 住職学研修」にて



参加者同士の触れ合いも調理を中心に増えるようだ



参加者との会話を通して共感を抱く



最後に、感謝と共に味わうことも布教の一つとなった

究極である、食育は料理ではなく生き方である」と。つまりこの時代、飽食にどっぷりと浸かっているのではなく、シンプルで無駄をそぎ落とした食生活をしたほうが地球のためであり、ゆえに「丁寧に生きる」ことなのでしょう。この励ましをいただいた後の足取りが軽く感じたのを今でも記憶しております。

触れ合いの先にあるもの ～参加型の布教活動～

一方的に講義をするスタイルではなくて、二部構成でやってみたらどうだろうかと考え、参加者が多少なりとも共通の価値観に気づいてくれたら：との思いで、以下のような活動を続けております。時に演題を『典座教訓の教えと智慧を活かすには』として、現代の世相と照らし合わせて、尚この教えをどう活かして、どう生きるのかという内容の法話をした後、制限時間の中で参加者と一緒にふれあいながら調理する活動を進めております。

皆と一緒に食事をして、最後にお茶を飲みながらの質疑応答もいいでしょう。きっとその中で気持ちに響く何かがあると思いますし、こちらとしては綺麗にまとめただけではなく、このひと時を

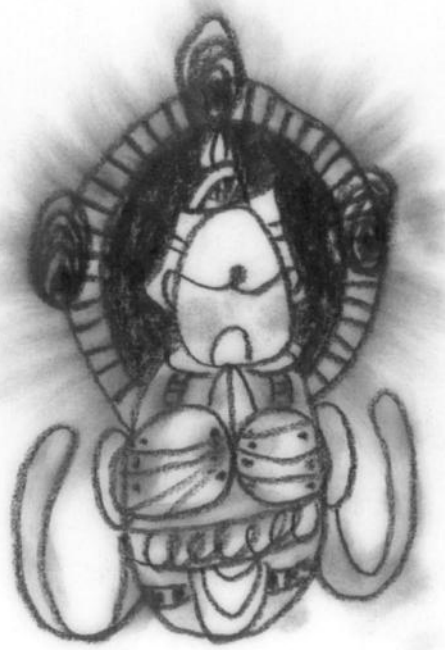
同じ価値観の共通点を見いだして、一つでも二つでも「響く話」をお伝えしたいのです。

道元禅師様のお言葉、メッセージとも思える『典座教訓』から得た智慧を学び、そして吸収する青年僧侶の存在意義を再確認し、現状維持で満足せずに、現代の世相に合った布教活動を展開しようと呼びかけとして、この連載を記してまいりました。

結びに、この企画に出会って共に汗をかいた皆さまに感謝いたしますと共に、読者の皆さまにも感謝申し上げます。

誠に有難うございました。

白澤雪俊 合掌



文 白澤 雪俊 (しらさわ せつしゅん)

昭和四十五年、青森県弘前市生まれ。十八歳で永平寺別院に安居修行しながら、駒澤短期大学(仏教科)に学ぶ。卒業後一年間東京都港区の青松寺に隨身(任職にお任せし学ぶ修行僧)として過ごした後、福井県曹洞宗大本山永平寺にて、七年間安居修行をする。この七年間中、約三年間を典座寮に配役される。永平寺送行後、大本山永平寺東京別院長谷寺副典として再安居。現在、青森県弘前市普門院副住職として師匠を補佐する傍ら、精進料理に関する講演などの布教活動に務める。第十七期全国曹洞宗青年会青少年教化委員会副委員長。

著書「身体にやさしい料理をつくるう」(ニエートプレス)

ホームページアドレス
<http://www6.ocn.ne.jp/~yamakan/>

「自分の人生を『主人公』として生きる」ことは万人の願うところであろう。それを叶えるためには、自分の人生を「我がこそが当事者」として考えて生きられるかどうか、問われるところでもある。「自分こそ当事者」と位置づけ、自立した生活を営むためには、まず、生活の基盤をしっかりと構築する必要がある。そのためには、自分の努力だけでなく、さまざまな社会資源を使う必要もあろう。

障がいを抱えながら社会の中で自立した生活を営むことを地域で支えていく方法、それが「包括型地域生活支援プログラム」である。これは医療主導でもなく、福祉主導でもなく、当事者主体の考え方に根ざした生活支援プログラムである。

つい最近まで精神保健福祉の領域では「措置」的処遇がなされていたが、最近では、生活の拠点を施設から地域に移し、措置から自立へと大きく方向転換された。しかし、はたして社会の中にその受け皿が十分に整っているかという点、不安な側面も多い。

そのような中で、「その人が、その人らしく生きられるよう、地域保健のネットワークで支えていく活動がせんだんホスピタルで始動している。

「当事者主体」のサポートは、「人生の主人公として生きること」を支える、地域の縁つなぎの活動」とも言えると同時に、当事者こそが人生の主体であることを、当事者自身が認識できるように基盤を整備する作業でもある。

科学を駆使し、社会資源を駆使して繰り広げられる、現代における地域保健福祉の縁つなぎの実践につき、せんだんホスピタル院長の浅野氏に取り組みをうかがった。

あまみず 恵道

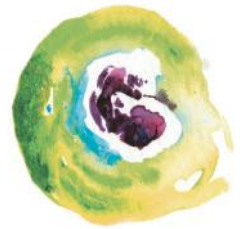
あまみずのダイアログ ⑦ 「せんだん」の名を冠した病院

東北福祉大学せんだんホスピタル・院長

浅野 弘 毅 × 飯島 恵 道
あさ の ひろ たけ いい じま けい どう

東北大学医学部卒業。精神科医。仙台市デイケアセンター所長、仙台市太白保健所長、仙台市立病院神経精神科部長、認知症介護研究・研修仙台センター副センター長を経て、現在、東北福祉大学教授。

長野県松本生まれ。尼寺育ち。看護師としての経験を生かし、医療と宗教の領域を横断する「あまみず (amans=ama (尼) + ns (ナース、看護師))」として活動中。



児童の精神医療を要に

飯島 宗門立の東北福祉大学に付属する大病院、というところに非常に興味を湧きます。設立の経緯をお聞かせください。

浅野 おそらく全国で初めての、医学部のない大学の付属病院だと思います。当初は高齢者に特化した精神医療を展開する計画でしたが、これからの未来を担う子ども達の精神医療が不可欠であると考え、児童専門の病棟と外来を設立しました。そして、なるべく慢性的な取容はせず短期での利用をめざし、地域医療にも力を入れる、というように当初の計画を修正してきました。病床を持つ児童精神科はこの近辺にはありませんので、他県からも来院してこられて、外来はパンク状態です。少子化の時代なのに不思議ですね(笑)。若い人には回復力があり、条件を



調べてあげると自ら治していきま。看護師や作業療法士・理学療法士を目指す学生がこの病院で実習をしますが、立ち直っていく患者さんの姿を見るのは、将来の自らの職業に対する希望にもなります。

飯島 それはやりがいがありますね。うらやましいです。私は昭和五十年代にある地方病院の精神科で実習をしましたが、重い雰囲気しなくて、声かけ一つにも悩んだ記憶があります。(精神障害は)回復するものと認知されると、周り(の患者への接し方)も変わってくると思います。逆に、(精神)障害があると違った目で見られるのが現状ですが、社会全体で考え方を変えないといけません。実習生たちのここでの経験が、患者さんに対する意識の変化として広まっていくのは良いですね。

ACTによる支援活動と成果

飯島 「せんだんホスピタル」を退院した患者さんが、社会に適應できず再入院するケースは、そんなに多くはないようですね。

浅野 障害者の自立支援法が出来る、地域で支える民間の活動が活発になりましたから、障害者を取り巻く環境は昔とは随分違うと思います。しかし、比較的年代が若く、最近退院した人は、制度を活用して社会生活が送れますが、何十年も入院していた方は、地域での生活力を失って、帰るべき家も無くなっています。また、精神障

害者のための高齢者施設はなく、長期入院患者は退院が難しいのが現状です。

飯島 この病院の特徴でもある「ACT(アクト)」は、その現状にどう対応しているのでしょうか?

浅野 正式には「Assertive Community Treatment」、つまり包括型地域生活支援プログラムのことですね(※)。従来、精神科の病院は世界的に長期収容型でした。英米では一九七〇年代頃から行政が従来の病院を閉鎖して、患者さんたちが出来るだけ生活を奪われずに地域で治療を受けてもらうという考えに基づき、訪問チームで支える活動としてACTは始まりました。その後日本でも、国立精神神経センター精神保健研究所が「ACT-J(アクト・ジャパン)」を設置し、精神科医や看護師、ソーシャルワーカーや当事者スタッフなどで編成されたチームを結成して、千葉県市川市を中心に試験的に支援活動を始めました。この病院のACTチームは、ACT-Jの中心メンバー二人をお呼びして活動を始めました。ACTチームは、患者さんが早期に退院出来るための準備をして、地域に戻る条件を整えます。ACTチームと病院が連携して活動して、車で三十分以内の範囲はACTチームが当事者宅を訪問し、外来に来られる方は病院が直接対応する。必要に応じて、危機的な状況に対応する仕組みになっています。ACTチームの活動を見る

と、「こういうサポートをすれば患者さんは退院できるんだ」ということがよく分かります。非常に手間隙をかけますね。例えば、トランプで警察に保護された精神障害のホームレス。本名も住所もわからないが、自らを「宮家の者だ」としか仰らない。引き取り手もなく、放っておけばまたホームレスに戻るから継続的に入院となるのが通例でしたが、ACTチームがアパートを探してきたおかげで退院出来ました。今でも何かあればACTチームが訪問しています。別の例では、自殺を図って病院に運ばれてきて、調べたら現住所がない。しかしACTチームで、ある離島に本籍があることまで探索しました。それで生活保護を申請してアパートを見つけることが出来ました。生活の基盤があるかないか、というのがメンタルヘルスの基本です。

飯島 そうしたケースは初めて聞きました。生活の基盤は重要ですね。個別ごとのケースにしっかり対応している感じがします。

浅野 今のところACTに診療報酬はありません。代わりに訪問看護や医師の往診点数をとって対応しています。手間隙を多くかけている割には、しばらくは金銭的に持ち出しになり、難しいところです。それでもACTはこれからの流れになると思います。

飯島 お話を聞くほどに、皆さんの熱意やたいへんさが伝わってきます。今後の展望を聞かせていただけますか？

病院とACTチームの連携はこれからの主流になります。
 今の時代にマッチした「行学一如」がありますね。
 (飯島)



浅野 この四月から入院児童のたのみの院内学級を開く予定です。そして、十代の児童に限定したデイケアが、すでに十月から試行的に

行われています。デイケアの多くは活動プログラムです。スポーツやゲーム、料理、外出して映画を観たり買い物したり。そういう



形で、通院できる人は通院してもいい、自宅から出られない人にはACTで支援、と両方を組み合わせたいこうと思っています。

学舎から行動を起こす

浅野 私もずっと仙台で暮らしていますが、東北福祉大学のここ二十年ほどの発展は目覚ましく、非常に人気のある大学です。近年は看護や作業療法・理学療法の学科が新設され、また予防福祉クリニックは学生の健康管理をするためにつくられましたが、ここは一般にも開放されています。

飯島 学生さんにとってもありがたいことですよ。医療と福祉と、

※包括型地域生活支援プログラム (ACT: Assertive Community Treatment)
 重い精神障害をもつ人たちでも住み慣れた地域で安心して暮らし続けていけるように、多職種のスタッフが積極的な訪問によって包括的なサービスを直接提供する、最も集中的・包括的なケアマネジメントのモデル。

東北福祉大学
 せんだんホスピタル
 多様化する現代社会で子どもや大人が多くのレストランをうけている現状を踏まえ、東北福祉大学(宮城県仙台市)でのこれまでの各種の福祉研究成果をもとに、医療・保健・福祉が融合した「こころのケア」を社会に提供し、地域医療・地域生活の一層の拡充を目指して、昨年六月にオープンした。病院の特色となるのが「ACT」、または「S-FACT」(サクト 仙台版ACT)にある。

総合的に展開しているのですね。
浅野 その外に高齢者関連施設や幼稚園、児童自立支援ホームもあります。「感性福祉研究所」では心理学や生理学的な研究をしています。二〇〇七年には大学直近にJR仙山線の「東北福祉大前駅」ができました。

飯島 聞けば聞くほど色々なことに取り組んでいるんですね。学んだことを行動に移そうという意欲がある。「行学一如」が建学精神と伺いましたが、この実践には、今時の社会にマッチした「行」がありますよね。

本連載中、袈裟に関する新しい資料や情報を知ることができた。まさに袈裟功德である。本年二月に東京国立博物館で開催された「妙心寺展」で、開山の関山慧玄（一二七七—一三六〇）が使用した緒子が展示されていた。十四世紀の南北朝時代のもので、緒子の変遷を考える上において貴重なものであった。また、京都の臨済宗の大本山寺院から緒子を所蔵している情報も入り、今後の研究によって緒子の成立過程が一層明らかになるものと期待している。

ところで、最近、続々と守持衣が見出された。黙山元轟（一六八三—一七六三）の使用していたものが三肩、徹顔微笑尼（一六九一—一七五六）が作って納めたものが三肩あった。まだまだ各地の寺院に所蔵しているものと思われるが、ここではそれらを紹介したい。

黙山は江戸中期に「坐禅黙山」と称され、枯木の如き坐禅一筋の生涯であった。天和三年（一六八三）出羽国（秋田県）（一六九六）に満福寺（横手市増田町）十三世孤室林峰について得度した。その後、江戸へ出て駒込の吉祥寺に錫を留め、続いて東昌寺（茨城県猿島郡五霞町）の隠之道頭に参じて法を嗣いでいる。

享保十八年（一七三三）には隠之の後住として東昌寺二十五世に就き、翌十九年には迦葉院（埼玉県北葛飾郡鷲宮町）を開いた。東昌寺住職であった黙山は関三刹の総寧寺との本末法系違乱の理由で幕府へ訴えられ、ついに江戸近郊より追放処分となって伊勢の長楽寺（いなべ市藤原町）へ隠棲した。その後、迦葉院へ戻り各地から招請されて雲水の教導に努めたが、宝暦十三年（一七六三）十一月五日に八十一歳で示寂した。

著書に『黙山元轟當念集』『鉗鉗集』『鶏足開山黙老和尚語録』などがあり、伝記は法嗣の龜山香江が編集した『黙山和尚年譜』がある。

黙山の遺品は、弟子はもろろんのこと米沢藩主上杉家の家老などにも贈られている。その名簿ともいえる「開山老人遺贈簿」（以下、



図1 迦葉院蔵の守持衣



図2 長楽寺蔵の守持衣



図3 長楽寺蔵の守持衣

「遺贈簿」と略称）が迦葉院にある。それから主な遺品の種類と数を整理してみると、守持衣が一〇八人に贈られており一番多い。続いて襖子（四十六）、頭巾（三十八）、襟衣（三十一）となり、掛絡（三）、モナル掛絡（二）、夏掛絡（一）、紋編子掛絡（一）、五条衣（一）など袈裟

黙山元轟と

微笑尼の守持衣

曹洞宗の袈裟に学ぶ 第9回

続々と見出される守持衣

愛知学院大学教授 川口高風

関係が多く、経典や禅籍などの書籍類はまったくくない。そのため学解知識を貴ばず、不立文字を重んじて坐禅一筋であったことが遺贈品より知ることができる。当時は五条衣を縮小した守持衣（ただし、七条や九条もある）、掛絡以外に五条衣の使用されていたことが明らかになる。しかし、その大きさがどれほどであったかは未詳である。今後の調査により見出されることを期待している。なお、守持衣の多かつたことは、黙山がいつも搭けていたからと考えてもよいであろう。

現在確認できた黙山の守持衣は迦葉院に一肩あり、縦三十六センチ、横七十三センチで、いろいろな布を綴り合わせたキリ雑の九条である（図1）。隠棲した長楽寺

には縦四十七センチ、横六十九センチの九条と縦四十七センチ、横七十センチの九条の二肩があり、同じく絹や麻が混じったキリ雑になっている(図2・3)。裏布はすべての守持衣についている。

次に、微笑尼の守持衣をみてみよう。微笑尼は美濃国多良郷の高木家六代目高木貞則の女で、尾張藩御側用心頭遠山景供の正室である。初め龍福寺(京都府船井郡京丹波町井尻龍福寺)開山の断崖独橋について参禅し、菩薩戒を受けた後、弟子の頭翁曳石にも参じた。微笑尼は靈鷲院(日進市赤池町)を開くにあたり、頭翁を開山に迎えたのである。靈鷲院には道元、瑩山兩禅師の御霊骨が安置されている。それは微笑尼が正法寺(奥州市水沢区黒石町)に伝わる御霊骨を同寺二十三世定山良光の弟子より得たためで、微笑尼は寛延三年(一七五〇)に道元禅師の御霊骨の一部を興聖寺(宇治市宇治山田)へ納めている。

微笑尼は、父母よりの手紙に観音経を書き、櫛の葉に観音菩薩の称号を書いたものを焼いて白でつき、漆で焼つて一千体の観音像を造った。それを全国の寺院始め、朝鮮、琉球の大刹へ納めるとともに、蓮の糸によつて九条衣や七条衣を作り永平寺、総持寺、興聖寺、當麻寺、正林寺(大垣市上石津

町)、曼陀羅寺(江南市前飛保町)靈鷲院へ納めている。さらに、安陀衣(五条衣)は面山瑞方を始め多くの耆年老宿に贈っていることが「藕絲袈裟記」などから明らかになる。

筆者の調査により微笑尼の作成した藕絲の袈裟が、その他にも存在することが明らかになった。それは龍福寺である。同寺は断崖独橋の開いた寺で、二世は頭翁曳石、三世は萬里虎閑であった。

一肩は縦一〇一センチ、横一六二センチの七条衣で、裏書によると寛延三年(一七五〇)十一月に寄附されたことが明らかになる。もう一肩は縦二十七センチ、横五十二センチの九条の守持衣で、その裏書には

濃州多良住高木氏源貞則女
尾州名古屋藤原氏遠山景慶母
靈鷲院微笑尼

誰かしるはちすの糸のから衣をりをはへきぬるはしめおほりを

とあり、七条衣と同じ和歌が記されている。寄附した年月日は記されていないため不詳であるが、おそらく七条衣と同時に寄附されたものと思われる(図4・5・6)。

龍福寺には、その他に裏書がないため詳しいことの明らかにならない守持衣も二肩ある。一つは縦三十七センチ、横四十三・五センチ

の藕絲で作られている(図7)。もう一肩は縦三十五センチ、横六十三センチのキリ雑でできている(図8)。

このように守持衣は三種を所蔵しているが、これらの袈裟が納められた箱の表には、
丹州高屋邑雲居山龍泉禅寺
御開山法衣藕絲七条一領

濃州多良住高木氏源貞則女
尾州名古屋藤原景供室

靈鷲院殿徹顔微笑禅尼寄附焉
于時寛延三歲午十一月申浚

とあり、七条衣の裏書と同文であり、また、箱の裏書に

無得良悟大和尚

寛保二壬戌五月廿三日示寂

寿九十二歳

暁堂無明大和尚

寛延四辛未年三月廿五日寂

寿七十二歳

とあり、無得良悟と暁堂無明の示寂日と行年が記されている。そのためこれらの袈裟は本来、龍福寺に寄附されたものではなく、龍泉寺(京都府船井郡丹波町富田岩内)の開山(無得良悟)へ寄附したものではなからうか。したがって、微笑尼は断崖、無隠道費、暁堂の本師の無得良悟へ納めたのであろう。

龍泉寺は近年、火災にあい山門などを残して灰塵に帰し荒地となつてしまった。しかし、袈裟は伽藍が廃絶される以前に本寺の龍福寺へ移蔵されていたのである。

微笑尼の作つた守持衣は面山瑞方も入手しており、「藕絲守持衣記」に

今所護持者藕絲九条。而尼微笑之所製也。……其製巧妙。余得三衣。方一尺有餘。衣背記三和歌一首并名。余常掛之。淨而輕矣。

とあり、方一尺(鯨尺、約三十七センチ四方)の大ききで、裏には微笑尼の和歌が記されている。しかし、残念ながら面山に贈られた守持衣はみつからない。



図6 後からみた姿



図5 横からみた姿



図4 微笑尼の裏書のある守持衣を搭けた姿



図8 龍福寺蔵の守持衣



図7 龍福寺蔵の守持衣

全国曹洞宗青年会

ほとけさまの知恵袋



裏



子ども用腕輪念珠



名札付お経カード



参加バッジ



中面

全曹青では、青少年への教化活動をより内容のあるものにしていただくために、かねてより再販の問合せが多かった「ほとけさまの知恵袋」を製作しました。

つきましては左記の内容にて実費頒布いたしますので、ご希望の方は左記の要領にてお申し込みください。

使い方いろいろ

- 子ども緑陰禅、日曜学校、子ども参禅会などの活動の折に
- 子ども授戒会の血脈袋として（儀式中に掛け血脈を懐に抱く）
- 経本・つどいのしおり入れとして
- お守り・写経・写仏入れとして
- お寺の法事など諸行事に（本堂備えつけ）
- 弟子との勤行に
- 首掛け名札プレートとして
- 幼稚園・保育園児に（諸行事）

● 価格

1本1,000円

（子供用腕輪念珠・名札付お経カード・参加バッジ・箱入り）

● お申し込み方法

郵送・FAX・E-MAILいずれかの方法にてお申し込みください。

● お申し込み先

〒509-5142

岐阜県土岐市泉町久尻1282-1 清安寺内 大久保 厚志（総合企画委員）

【FAX】0572-55-3268 受付時間は《9時～16時》

【E-MAIL】chie@sousei.gr.jp

または全曹青HP申し込みフォームより

● お申し込み期限

在庫が無くなり次第頒布を終了いたします。

● お届け方法

5月1日より順次、着払いにてお届けします。

ほとけさまの知恵袋申込書

宗務所名		寺籍番号		寺院名	
名前		電話番号		申込数	本
ご住所	(〒 -)				

発行所 全国曹洞宗青年会 〒105-8544 東京都港区芝2-5-2 曹洞宗宗務庁内/発行責任者 芳村元悟 編集責任者 河村康仁 編集委員 青野貴芳・板倉省吾・志保見道・一松岡広也・間根和明・吉田義弘・大室義暁・藤木絵智・大村則道・狩野晃一・古山健一・川口高裕
本誌編集部並びに発送部数へのお問い合わせ先 〒273-0865 千葉県船橋市夏見6-23-3 長福寺内 FAX(047)4366808 河村/全曹青ホームページ http://www.sousei.gr.jp/印刷所 株式会社 中央デザイン/定価 二百円